



# POD® HD500X

## アドバンスド・ガイド



本ガイドではPOD HD500Xの特徴や機能を  
詳しくご紹介します。

エレクトロフォニック限定版

# 目次

## 1 - 概要 ..... 1•1

ホーム・ビュー .....	1•1
チューナー・モード .....	1•3
タップ・テンポ.....	1•4
接続 .....	1•4
POD HD500Xエディット・ソフトウェア .....	1•5

## 2 - システム・セットアップ ..... 2•1

システム・セットアップへアクセスする .....	2•1
ページ 1、Setup:Utilities.....	2•2
ページ 2、Setup:Utilities.....	2•3
ページ 3、Setup:Input .....	2•4
ページ 4、Setup:Output .....	2•8
ページ 5、Setup:S/PDIF Output .....	2•9
ページ 6、MIDI/Tempo .....	2•10
ページ 7、Setup:Variax .....	2•11
ページ8、James Tyler Variax Tuning Options .....	2•16
ページ9、Setup:L6 LINK Audio .....	2•17
ページ10、Setup:L6 LINK Control .....	2•18

## 3 - 特徴 & 機能 ..... 3•1

アンプ・ブロック .....	3•3
ミキサー・ブロック .....	3•4
エフェクト・ブロックを移動する .....	3•5
エクスプレッション・ペダルのアサイン .....	3•7
エフェクト&アンプ・ブロック・フットスイッチ・アサイン .....	3•10
ダイナミックDSP .....	3•14

<b>4 - セットリスト&amp;プリセット .....</b>	<b>4•1</b>
セットリストを使って作業をする .....	4•1
プリセットを使って作業をする .....	4•4
プリセットの保存 .....	4•6
<b>5 - エフェクト・エディット・モード.....</b>	<b>5•1</b>
エフェクト・エディット・モードにアクセスする.....	5•1
FX Loop .....	5•3
<b>6 - アンプ、キャビネット&amp;マイクモデル.....</b>	<b>6•1</b>
アンプ・モデルの位置決め .....	6•1
アンプ、キャビネット、マイク・モデルを選ぶ .....	6•3
アンプ・パラメーターをエディットする .....	6•7
アンプおよびキャビネット・エディット・ディスプレイ .....	6•7
アンプ/プリセット・モデル .....	6•12
キャビネット・モデル .....	6•15
<b>7 - エフェクト・モデル .....</b>	<b>7•1</b>
ダイナミクス・モデル .....	7•1
ディストーション・モデル .....	7•2
モジュレーション・モデル .....	7•3
フィルター・モデル .....	7•5
ピッチ・モデル .....	7•6
プリアンプ+EQモデル .....	7•9
ディレイ・モデル .....	7•10
リバーブ・モデル .....	7•11
ボリューム・パン/ワウ・モデル .....	7•13
<b>8 - ルーパー・モード .....</b>	<b>8•1</b>
ルーパー・フットスイッチ・コントロール&パフォーマンス・ビュー .....	8•1
ルーパー・セッティング .....	8•5

## **9 - USBオーディオ ..... 9•I**

Line 6 USBオーディオ・ドライバー .....	9•1
Line 6 Audio-MIDI装置パネル .....	9•3
Mac®-Line 6 Audio-MIDI装置 .....	9•4
Windows®-Line 6 Audio-MIDIデバイス.....	9•10

## **付録 A : Line 6 Monkey™ ..... A•I**

Line 6 Monkeyを起動する .....	A•1
Line 6 Variaxアップデート.....	A•3

## **付録 B : MIDI ..... B•I**

MIDI Inpur & Out/Thru.....	B•1
バンク&プログラム・チェンジ・メッセージ .....	B•3
POD HD500XをMIDIコントローラー・デバイスとして使用する .....	B•5

Line 6、POD、DT50、DT25、Variax、James Tyler、Vetta、L6 LINK、CustomTone および Line 6 Monkey は、Line 6, Inc の登録商標です。その他の全ての製品名や商標名、アーティスト名は各社が所有しており、Line 6との関連や提携関係はありません。製品名や画像、アーティスト名は、Line 6が本製品向けにサウンド・モデルの開発を行った際に研究したトーンやサウンドを識別するためにのみ使用されています。これらの製品や商標、画像、アーティスト名の使用は、協力関係やエンドースを暗示するものではありません。

# I - 概要

POD® HD500Xアドバンスド・ガイドへようこそ。本ガイドでは、POD HD500Xの特徴や、機能を詳しくご紹介します。POD HD500Xに関する基本的な情報は、**POD HD500Xパイロット・ガイド**を良くお読みください。その上で本機をさらに徹底的に使い込むための内容をこのガイドでご紹介していきます！この章では、まず始めに主だった画面と機能の概要から説明します。

このガイドは、フラッシュメモリー・バージョン1.01（またはそれ以降）をインストールしたPOD HD500Xを対象に記載されています。Line 6 Monkeyを使用して最新のアップデートを確認し、インストールを行ってください - [A•1ページの「付録 A : Line 6 Monkey™」参照。](#)

## ホーム・ビュー



ホーム・ビュー画面が出発点です。**VIEW**ボタンを押すことで、3種類のホーム・ビューを順番に切り替えることができます。いずれのホーム・ビュー画面でも、**PRESETS**ノブを回すと、現在選択されているセットリ스트からプリセットを呼び出すことができ、また**PRESETS**ノブを押すと他のセットリ스트から選択が可能になります。

## シグナル・フロー・ビュー

シグナル・フロー・ビューには、現在選択されているプリセットの全てのアンプ&エフェクト「ブロック」とそれらの順序が表示されます。以降の章でも繰り返し登場しますが新しいアンプやエフェクト・モデルの選択、パラメーターのエディット、位置変更やその他数々の動作を実行させるためにブロックを「選択する」のがこの画面です。

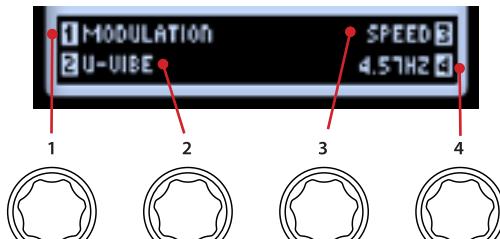


各プリセットのシグナル・フロー構造は、アンプ&エフェクト・ブロックを置くことの可能な、以下の3つのメイン・セクションで構成されています：プリ、ポスト、パラレルなバスA&B。

## 概要

Signal Flow画面の下方に、マルチファンクション・ノブ1～4を使用してアクセスするパラメーターが4種類まで表示されます。

1•2

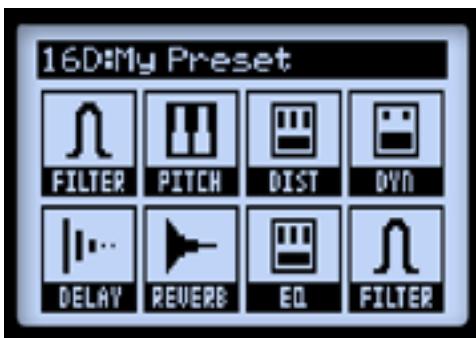


マルチセレクト・ノブでパラメーターにアクセスする

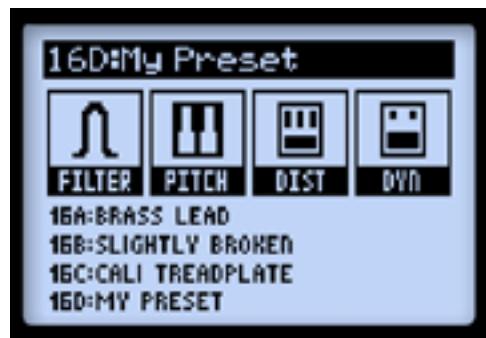
これらは、現在選択されているブロック特定のパラメーターであり、新しいモデルとエディット・パラメーターを選ぶことができます。または詳細なエディット・モードに入り、本章以降で記載されるように、他の画面上で追加設定にアクセスすることができます。

## パフォーマンス・ビュー

パフォーマンス・ビュー画面には、POD HD500Xのフットスイッチに現在割り当てられているエフェクトやプリセットが表示されます。フットスイッチ **FS5～FS8** は、エフェクトのオン/オフ、プリセット・チャンネル選択のどちらかに設定することができます ([2•2ページの「ページ1、Setup:Utilities」](#) 参照)。



FS1～FS8へのエフェクトの割り当て



FS5～FS8へのABCDの割り当て

**FS1～FS8**に対するこれらエフェクトの割り当ては、プリセット毎にエディットすることができます ([3•10ページの「エフェクト&アンプ・ブロック・フットスイッチ・アサイン」](#) 参照)。ルーパーがアクティブの場合、パフォーマンス・ビュー画面には一連のルーパー機能が表示されます ([8•1ページの「8 - ルーパー・モード」](#) 参照)。

## ビッグ・ユーザー・ビュー

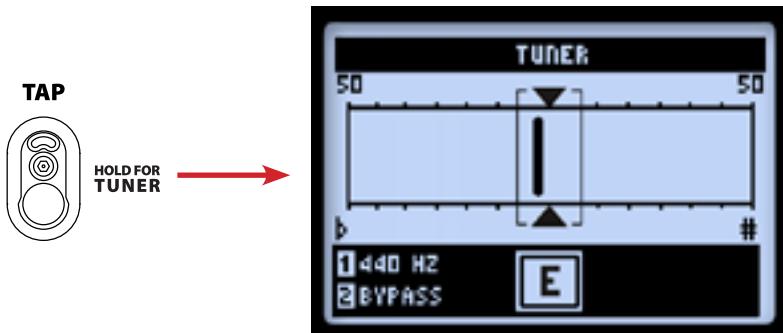
この画面では、現在読み込まれているプリセット番号のみが大きく表示されるので、暗いステージ上では特に便利です！



ビッグ・ユーザー・ビュー

## チューナー・モード

チューナー・モードに入るには、**TAP**ボタンを長押しします。マルチファンクション・ノブで調整可能なオプションがいくつか用意されています。



チューナー画面

ギターの弦を個々に弾くと音名が表示されます。バーが中心より左に位置している場合は弦がフラット、右に位置している場合はシャープです。バーが中心の範囲内にあれば、表示の上下に三角形のマークが表示されピッチが合っていることを意味します。

- リファレンス（ノブ 1）：標準の440Hz以外の基準ピッチでチューニングしたい場合は、425から455Hzまでの範囲で選びます。
- オーディオ（ノブ 2）：チューニングを行う間POD HD500Xのアウトプットから音を出したくない場合は、MUTEを選択します。BYPASSを選択すると、ギターのドライ音を聞くことができます。

チューナー・モードを終了するときは、**TAP**スイッチかフットスイッチのどれかを押します。

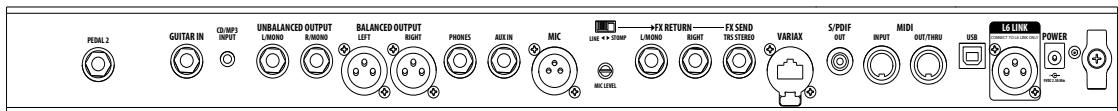
## タップ・テンポ



**TAP** POD HD500Xでは**TAP**ボタンを利用してアクセスする「System Tempo」値をタップ・テンポと呼んでいます。リズムにあわせて踏むことでタップ・テンポを設定します。あるいは、Setupの中でテンポ値を数字で設定することも可能です（[2•10ページの「ページ 6、MIDI/Tempo](#) 参照）。この設定はプリセット毎に保存されます。

**TAP**スイッチのLEDが点滅して現在のBPM値を表示します。Tempo Syncパラメーターが用意された、テンポをベースのエフェクト（モジュレーション、フィルター＆ディレイ・エフェクト）は、このタップ・テンポ値をもとに音符を任意に設定することができます。

## 接続



リア・パネルの接続に関する詳細は、POD HD500Xパイロット・ガイドをご覧ください。特定の使用方法についての詳細は、以降の章の中にも同様に記載されています！

## POD HD500X エディット・ソフトウェア

[line6.jp/software](http://line6.jp/software)へアクセスして、Mac®とWindows®コンピュータ用の無償パッチ・エディター/ライブラリアン、Line 6 POD® HD500X Editソフトウェアをダウンロードできます。POD HD500X EditとUSB接続を利用することで、トーン・プリセットの作成、オーディション、カスタマイズ、バックアップや復元が簡単な操作で行うことができ、本機にトーン・プリセットを数に限りなく保存することができます。L6 LINK/DT50やMIDI接続を同時に利用しながら、POD HD500X Editを使用することも可能です！



POD HD500X Editアプリケーション



## 2 - システム・セットアップ<sup>°</sup>

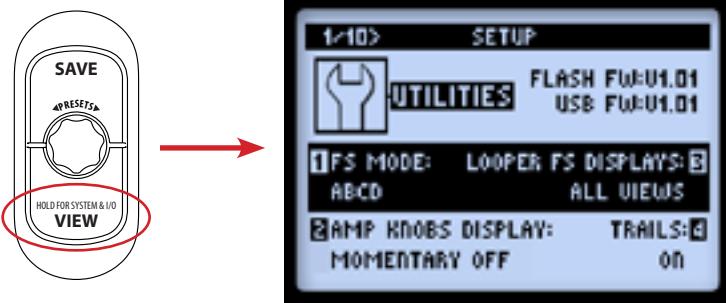
この章では、POD® HD500Xのシステム設定を構成するオプションについて説明します。

System Setup オプションの中には「グローバル」設定（現在選ばれているプリセットに関係なく、常に維持される設定です）と以下のセクションで述べるように、プリセット毎に個々に保存されるものがあります。後者のタイプのセッティングを変更した後に内容を保持しておきたい場合は、必ずそのプリセットを保存してください。

2•1

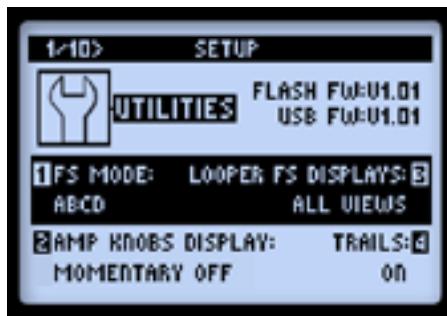
### システム・セットアップへアクセスする

Setup オプションにアクセスする場合は、**VIEW**ボタンを長押しします。ここでは本機の機能、インプット&アウトプット・セッティングやその他の設定を行うことができます。



◀▶ ナビ・ディスク・ボタンを使用して、Setup ページ内を移動します。

## ページ I、Setup : Utilities



画面上部には、フラッシュ・メモリーと現在POD HD500XにインストールされているUSBファームウェアバージョンが表示されます。画面下部には、マルチファンクション・ノブ1～4を使用して調整可能な4種類のオプションが用意されています。

- FS Mode (ノブ 1) :「ペダルボード・モード」または「プリセット・モード」のどちらかに応じてPOD HD500X フットスイッチFS5～FS8の機能を設定します ([4•5ページの「パンク&チャンネル・フットスイッチ](#) 参照)。この設定はグローバルです。

現在フットスイッチに割り当てられている機能は全てパフォーマンス・ビュー画面で調べることができます。またその画面表示は、ここで選んだフットスイッチ・モードの種類に応じて変わります。["エフェクト&アンプ・ブロック・フットスイッチ・アサイン" on page 3•10](#) をご覧ください。

- Amp Knobs Display (ノブ 2) :「On」に設定されている場合、アンプ・ノブを調節すると、アンプ・トーン・ノブの値が瞬時にLCD画面に表示されます。この設定はグローバルです。
- Looper FS Displays (ノブ 3) : **LOOPER** フットスイッチで Looperモードに切り替えると、パフォーマンス・ビュー画面は自動的にルーパー・フットスイッチ機能の表示に変わります ([8•1ページ](#) 参照)。この設定はグローバルです。Looperモードがアクティブの場合、以下の選択ができます：
  - All Views: 現在選択しているビューに関わらず、LooperコントロールをLCDに表示します。
  - Performance View: パフォーマンス・ビュー画面として Looper画面を表示します (**VIEW** ボタンを切り替えると、3種類のホーム・ビュー画面を表示します)。

ルーパー画面のアイコンは、現在ルーパーが行っている機能を示すものではなく、それぞれのフットスイッチを踏むと何が起きるかを示す表示です。

- **Trails** (ノブ 4) :「On」に設定されている場合、モデルをオフに切り替えた際にとエコーがリピートし、またディレイのディケイとリバーブ・エフェクトは効果が持続します。Trailsオプションを「Off」に設定した状態で、モデルをオフに切り替えると、ディケイは瞬時にミュートされます。この設定はプリセット毎に保存されます。
  - エフェクト・ループも Trails 機能を使用します。この機能をオンにしてエフェクト・ループをバイパスすると、センドがオフになっている間もリターンはアクティブのままです。
  - Trails 機能は、プリセットを変更した際にエフェクトのディケイが残るものではありません。

## ページ 2、Setup : Utilities



画面下のオプションには以下のものが用意され、全てがグローバル設定です。

- **LCD Contrast** (ノブ 1) :画面のコントラストを調整します。
- **Tap Tempo LED** (ノブ 2) :「On」を選択すると **TAP** フットスイッチのLEDが点滅してさせて現在のTap Tempo値を示します。「Off」を選択しておくとライトは消灯したままです。
- **AC Frequency** (ノブ 3): 全てのHDアンプ・モデルには、真空管のヒーター部品に特有のACハムのシミュレーションが含まれています。これは真空管アンプのトーンに不可欠な要素です。リアルさを出すにはUSA (60Hz) または UK (50Hz) の周波数にAC比を合わせてください。(この設定は、アンプ・モデルの設定によっては微妙な効果となる場合もありますが、POD HD500X を接続する真空管アンプのAC比とマッチさせると、より明白になることがあります。)

## ページ 3、Setup : Input

Inputs Setupページでは、プログラム可能なパッチペイが内蔵されているかのように、どのデバイスのオーディオ入力を「ソース」に使用するかを選ぶ事ができます。ギターの入力インピーダンスを調整するコントロールも備えられています。

2•4



- **Input 1および Input 2 (つまみ1&2)** 一シグナルパスへ送るソースを選択します。各シグナルパスへ送るソースを個別に選択することも、SAMEを選択して両方のパスへ同じソースを送ることもできます。
  - Variax および Variax Mag インプット・ソースのオプションは、POD HD500X **VARIAX** Digital Input (VDI) へLine 6 Variax®ギターを接続した際に提供されます。
  - James Tyler® Variax® (JTV) の場合、「Variax」インプット・ソースはJTVのモデル・スイッチのセッティングに応じてモデルまたはマグネティック・ピックアップのシグナルを受信します。「Variax Mag」インプット・ソースはJTVのマグネティック・ピックアップのシグナルのみ受信します。

\*注：JTVを使用している場合、「Variax」インプット・ソースはマグネティック・ピックアップ、モデルのどちらを使用していたかをプリセットごとに記憶するので、再び使用する際には新たに手動での選択やインプット変更を行うことなく前回終了したところからスタートすることができます。

- 第1世代のVariax楽器を使用している場合、Variaxインプット・ソースを選択することが推奨されます。詳細はVariaxの説明書をご覧ください。
- **Guitar In-Z (ノブ 3)** -ギター・インプットの入力インピーダンスを選びます。この機能により、ギター・ピックアップにエフェクト・ペダルやチューブアンプが接続されたような負荷をかけ、トーンや振る舞いに影響を与えることができます。

**注意:** Guitar In-Z設定は、**GUITAR IN**入力にのみ影響を与えます。個々のモデルの入力インピーダンスについては、このセクション最後のインピーダンス・レイティング表を参照してください。

- Autoオプションでダイナミックに入力インピーダンスを設定し、POD HDのシグナル・チェーンの中の最初のアンプやエフェクト・モデルの入力インピーダンスに合わせることができます。
- または、ローからハイまでの様々なインピーダンス値(22k、32k、70k、90k、136k、230k、1M、3.5M)の中から選ぶことができます。設定値を低く選ぶと、高い周波数を減衰させてゲインが下がり、全体に柔らかい感じになります。設定値を高くすると、周波数レスポンスがフルになり、より高いゲインと固めの感じが得られます。
- **Inputs Setup (ノブ 4)** —このInputs画面の他の3オプションを、プリセットごとに、またはグローバルに適用するかどうかを決定します。
  - **Preset**—プリセットを呼び出すと、**Input 1 Source**、**Input 2 Source**とGuitar In-Zパラメーター設定を、最後に保存した個々のプリセットと共に読み込みます。
  - **Global**—ここで「Global」を選択した場合、各プリセットに保存されている数値は無視され、このセットアップ・ページの他の3つのインプット(インプット・ソース1、2およびGuitar In-Z)の数値が全体で使用されます。このセットアップ・ページで設定した各インプット数値は**Input Setup - Global**に保存されます。**Input Setup**を「Preset」に戻すと、各プリセットに保存されたインプットの数値が再び使用されます。

注: この設定が「Global」になっている状態でプリセットを保存すると、現在の全体のインプットおよびGuitar In-Z数値が各プリセットに書き込まれます。

2-5

アンプ&エフェクト・モデル—ギター・インプット・インピーダンス・レイティング	
モデル	ギター・インプット・インピーダンス(Ω)
<b>アンプ&amp;プリアンプ</b>	
全てのアンプ&プリアンプ・モデル	1M
<b>ディストーション・エフェクト</b>	
Screamer	230k
Color Drive	136k
Buzz Saw	230k
Facial Fuzz	22k
Jumbo Fuzz	90k

アンプ&エフェクト・モデルー ギター・インプット・インピーダンス・レイティング	
モデル	ギター・インプット・インピーダンス(Ω)
Fuzz Pi	22k
Octave Fuzz	230k
他全てのDistortionモデル	1M
ダイナミクス・エフェクト	
全てのDynamicsモデル	1M
モジュレーション・エフェクト	
Dual Phaser	230k
U-Vibe	90k
Analog Chorus	22k
他全てのModulationモデル	1M
フィルター・エフェクト	
全てのFilterモデル	1M
ピッチ・エフェクト	
全てのPitchモデル	1M
ディレイ・エフェクト	
Multi Head	22k
Analog Echo	230k
Analog w/Mod	90k
他全てのDelayモデル	1M
プリアンプ+EQ エフェクト	
全てのプリアンプ+EQモデル	1M
リバーブ・エフェクト	
全てのReverbモデル	1M
ワウ・エフェクト	
Weeper	90k
他全てのWahモデル	1M
ボリューム&パン・エフェクト	
全てのVolumeとPanモデル	1M
FX Loop	
FX Loop	1M

## ソース・インプット・シグナル・ルーティングについて：

POD HD500Xが、Pre位置にあるアンプ＆エフェクト・ブロックへ、Source Input 1と2をどのようにルーティングするのかを理解しておくことが重要です。以下のような場合があります：

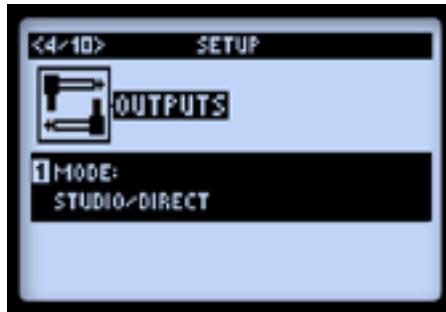
- Preの位置にアンプやエフェクト・ブロックを置いていない設定では、Input 1はパスAへのみ供給され、Input 2はパスBへのみ供給されます。インプット・ソースをパスAとBに独立させておきたい場合は、
- アンプ・ブロックやアクティブなモノ・エフェクト・モデルをPre位置に置くと、インプット・ソース1&2が「ミックスダウン」され、同じ信号が各パスA&Bへ送られます。
- ステレオ・エフェクト・モデルをPre位置に置くと、左チャンネルのエフェクト・アウトプットはパスAへ送られ、右のアウトプットはパスBへ送られます。\*
- ミキサー・ブロックのVolumeとPanオプションは、ミキサーの「Post」にどのようなブロックが置かれているとしても、パスA&Bアウトプットが送られる前に独立したコントロールを提供します。
- Input 2を「Same」に設定すると、ステレオ・パスA&Bの両方へインプット・ソースを効率的にルーティングできます（これにより、例えば1つのギター・インプットを2つのアンプ・モデルやパラレル・エフェクトへ送ることができます）。

モノとステレオ・エフェクトがシグナル・チェーンに及ぼす影響についての詳細は、["モデル・タイプとモノ/ステレオ・シグナル・ルーティング" on page 3•6](#)をご覧ください。

## ページ 4、Setup : Output

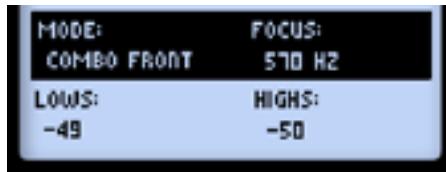
このページのModeの設定により、POD HD500Xのアナログ・アウトプットをダイレクト・レコーディング用、外部アンプ接続用に最適化できます。

このMode セッティングは、POD HD500Xのアウトプットに送られる、バランス、アンバランス & フォーン・アウトプット、そしてUSB Record Send & L6 LINK オーディオ・アウトプット等の信号に影響を与えます。



ノブ1を使用して Outputs Modeを選択します。これはグローバル設定です。

- **Studio/Direct:** ミキシング・コンソールまたは録音器機へ「ダイレクト」に接続する場合にベストなオプションです。この信号は、「Studio」キャビネット・モデル、マイク・モデル「AIR」コンボリューションを含み、室ルーム内でアンプにマイキング音を模倣しています。
- **Combo と Stack 設定:** 外部アンプへ接続する際のトーンを最適化します。特別なEQカーブがそれに加えられた「Live」キャビネット・モデルが信号に含まれていますが、マイク・モデルや「AIR」コンボリューションは含まれません。
- **Combo Front & Stack Fron:** 典型的なコンボ・アンプやアンプ・ヘッド+外部キャビネットのフロント・インプットへ接続する際に使用します。これらのモードのどちらかを選択すると、トーンをさらに調整できる以下の追加オプションが表示されます。



- **Lows (ノブ 2):** 低域をアッテネートする。
- **Focus (ノブ 3):** 中域全体を持ち上げる。
- **Highs (ノブ 4):** 高域をアッテネートする。

- Combo Power Amp & Stack Power Amp:コンボやヘッド・アンプのパワー・アンプへ接続します。

**ヒント:**ComboまたはStackオプションを使用してチューブ・アンプに接続する場合、「フル」アンプ・モデルの中からではなく) Amp Modelメニューからプリアンプ・モデルを1種類選択することをお勧めします。HDプリアンプ・モデルには、パワーアンプ・エミュレーションが含まれていないため、こうした接続に適しています。もちろん、間違った選択など存在しません！PODが常にこだわるのが柔軟性です…可能性は全て試して、あなたのサウンドに最も合うモデルを選んでください！

2-9

## ページ 5、Setup : S/PDIF Output



これらのオプションは、**S/PDIF OUT**ソケットへ送られた信号を設定するためのみに用意されています。コンピュータ・オーディオ・インターフェースまたはデジタル・ミキシング・コンソール等、他のデバイスのS/PDIFインプットへ接続する際に、この24ビット・デジタル・コネクションを使用します。

注意：別のデジタル機器を接続する場合は、同期が正しく維持されるよう、外部デバイスをPOD HD500Xのクロックへ追従させるのがベストです。詳しくは、お手持ちのデジタル機器の説明書をご覧ください。

- S/PDIF Output (ノブ 1)** : アウトプット・モードの信号タイプを選択します：Match Outputs (Setup : Outputs画面で構成した設定を使用します。[2-8ページ](#)参照) またはDry Input (アンプ、キャビネット、マイク、「E.R.」、エフェクト処理音無しのソース・インプット信号)。
- Sample Rate (ノブ 2)** : サンプル・レートを44.1kHz、48kHz、88.2kHzまたは96kHzから選択します。他のデバイスのS/PDIFインプットへ接続する場合は、必ず両方のデバイスを同じサンプル・レートに設定してください。
- S/P Level (ノブ 3)** : S/PDIF信号の振幅を増やします：0dB

## ページ 6、MIDI/Tempo



- MIDI Channel (ノブ 1) : POD HD500X が MIDI IN と OUT 端子経由で利用する、MIDI コミュニケーションの送受信に必要な「システム」MIDI チャンネルを設定します。チャンネル 1 ~ 16 のいずれかを指定するか、もしくは全チャンネルを利用できる「Omni」を選択します\*。これはグローバル設定です。

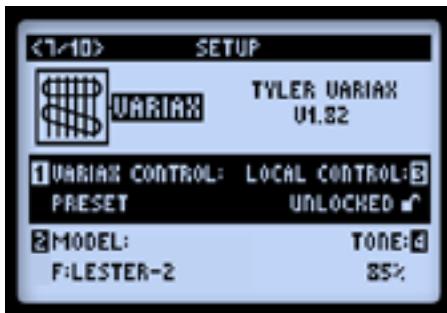
注意: ここで選択した MIDI チャンネルは、L6 LINK を利用した MIDI チャンネルセッティングにも影響を与えます ([2•18 ページの「ページ 10、Setup : L6 LINK Control」](#) 参照)。

- MIDI Out/Thru (ノブ 2) : MIDI OUT 端子の機能をが MIDI Out と Out + Thru 間で切り替えられます。
- Tempo Sync (ノブ 3) : テンポ・ベースのエフェクト (モジュレーション、ピッチ&ディレイ) の全ての「Speed」または「Time」パラメーターがを (ノブ 4) テンポ BPM 値に従った音価へ任意に設定できます。この Tempo Sync オプションはグローバル設定であり、エフェクトがプリセットごとの値、またはグローバル設定としてのタップ・テンポのどちらに従うかを選ぶことができます。
  - Preset: テンポ設定はプリセット毎に保存され、呼び出されます。
  - Global: プリセット内に保存されたテンポ情報は無視されます。このオプションを「Global」に設定した状態でプリセットを保存しようとすると、現在設定したテンポ値がそのプリセットと共に保存されることになります。
- Tempo (ノブ 4) : 現在選択されているプリセットに特定のテンポ値を入力します (あるいは、リズムにあわせて **TAP** フットスイッチを踏みます)。この値はプリセット毎に個々に保存されます。

## ページ 7、Setup : Variax



ページ7—Variaxの接続なし



ページ7—James Tyler Variaxを接続

上記の図で示されているように Variax が POD HD500X **VARIAX** (VDI) インプットへ接続されている場合、Setup ページ 7 にモデル固有の追加オプションが表示されます。Variax が接続されている場合、その Variax の種類およびファームウェア・バージョンが画面の右上に表示されます。表示される使用可能なオプションや動作は、接続されている Variax の種類によって変わります(以下のセクションを参照してください)。いずれの Variax が VDI インプットに接続されている場合でも、ノブ 1 の機能は以下の通りです。

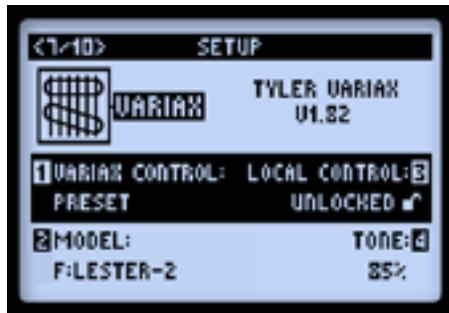
- **Variax Control (ノブ1)** : 全ての Variax のセッティングを、各プリセットまたはグローバルでアサインするかを Setup ページ 7 の画面で選択してください。
  - 「Preset」を選択した場合、Variax Setup 画面 (Setup ページ 7 と 8) に表示されるパラメーターは POD HD500X の各プリセットに保存され呼び出されます。Variax が接続された状態で「Preset」を選択すると、画面に追加のオプションが表示されます。
  - 「Global」を選択した場合、POD HD500X のプリセットで保存された Variax の設定とは関係なく、全ての Variax の機能を手動でコントロールすることができます。

\*注: James Tyler Variax (JTV) の場合、ギターの Mag/Model スイッチ (「Variax」インプット・ソースを通して聞こえている) が各プリセットまたはグローバルのどちらで呼び出されるかを決定します。また、Setup ページ 8 - JTV Tuning Option はこの Variax コントロール・セッティングに影響されません。チューニング設定は各プリセットに保存されます。

## James Tyler® Variax®

全てのJames Tyler Variax (JTV) ファミリーのギターに対応しています。追加のJTVオプションの詳細は[2•16ページの「ページ8、James Tyler Variax Tuning Options」](#)をご覧ください。

2•12



- **Variax Control (ノブ1)** : [2•11ページ](#)をご覧ください。
- **Model (ノブ2)** : Variaxのモデルおよびピックアップの位置の設定を選択します。JTVのモデルをPOD HD500Xに保存されたモデルで置き換えたくない場合は「Don't Force」を選択してください。
- **Local Control (ノブ3)** : JTVのボリュームとトーン・ノブ、およびセレクター・スイッチをアクティブのままにするか「ロック」するかを決定します。ロックされている場合、JTVのモデリング・ギターのアウトプットをノブおよびスイッチによって手元で操作することができなくなります。

\*注：JTVギターのマグネティック・ピックアップ出力を使用している場合、Local Control - Lockedのセッティングではボリューム・ノブのみがロックされます。ノブ3で「ロック」が選択されている場合も、マグネティック・ピックアップ出力のトーンおよびピックアップ・スイッチの機能はロックされていない状態です。これによりマグネティック・ピックアップ・アウトプット・モードの時はJTVのトーン・ノブやピックアップ・セレクターを自由に使いつつ、モデル・アウトプット・モードに戻った際にはモデリングされた設定を「ロック」したままで使用することが可能になります。

また、これらのJTVコントロールがロックされている場合、JTVギターのModel Encoderノブを変更すると全てのロックが自動的に解除されます。

- ノブがPOD HD500XアンプやFXパラメーターにアサインされている場合、JTVのボリュームおよびトーン・ノブを「ロック」しておくと便利です。詳細は["エクスプレッション・ペダルのアサイン" on page 3•7](#)をご覧ください。
- **Tone (ノブ4)** : JTVのトーン・ノブの数値を現在のプリセットと一緒に保存する、またはVariax Control (ノブ1) のセッティングでグローバルに適用することができます。

## Variax Electric

全ての第1世代 Variax エレクトリック・ギターに対応しています。



2•13

- **Variax Control (ノブ1)** : [2•11ページ](#)をご覧ください。
- **Model (ノブ2)** : Variax のモデルおよびピックアップの位置の設定を選択します。JTV のモデルを POD HD500X に保存されたモデルに置き換えたくない場合は「Don't Force」を選択してください。
- **Local Control (ノブ3)** : この機能は第1世代 Variax には適用されないため、選択可能なオプションはありません。
- **Tone (ノブ4)** : Variax ギターのトーン・ノブの数値を現在のプリセットと一緒に保存することができます。

## Variax Acoustic 700

Variax Acousticギターの追加機能は、Setupページ7aおよび7bに表示されます。マルチファンクション・ノブ1、2、3は共通のコントロールで両方のSetupページに表示されます。ノブ4は各ページ固有のものです。

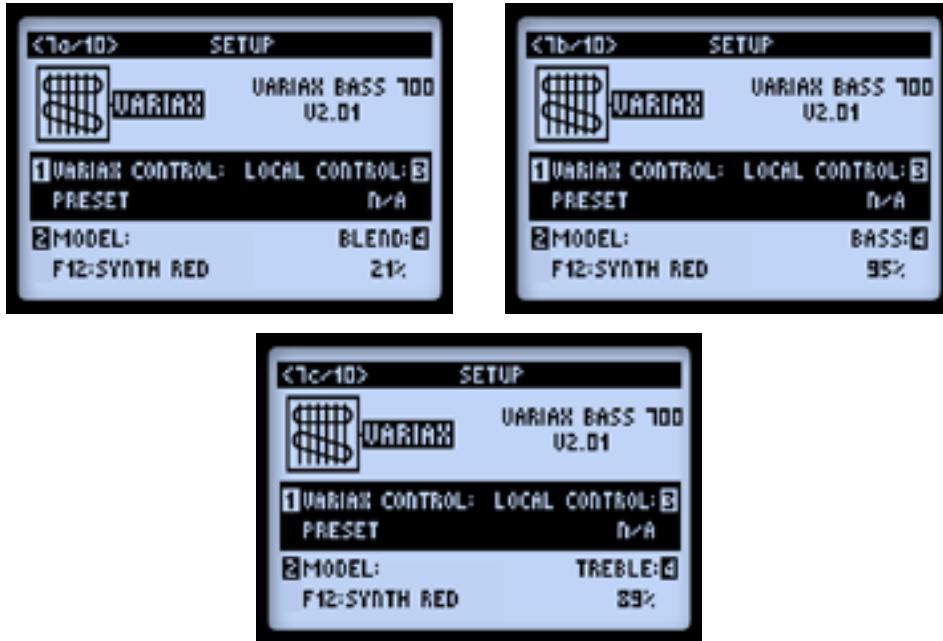


- Variax Control (ノブ1) : [2•11ページ](#)をご覧ください。
- Model (ノブ2—ページ7a、7b) : Variax Acousticのモデルを選択します。JTVのモデルをPOD HD500Xに保存されたモデルに置き換えたくない場合は「Don't Force」を選択してください。
- Local Control (ノブ3—ページ7a、7b) : この機能は Variax Acoustic には適用されないため、選択可能なオプションはありません。
- Mic Position (ノブ4—ページ7a) : この数値を動かすと、アコースティック・ギターのサウンドホールの近くから遠くへマイキングの位置を移動するシミュレーションすることができます。
- Comp (ノブ4—ページ7b) : Variax Acousticにかかるコンプレッサーの強さを選択します。

## Variax Bass 700 & 705

Variaxベースの場合、ベースのコントロールはSetupページ7a、7bおよび7cに表示されます。マルチファンクション・ノブ1、2、3は共通のコントロールで両方のSetupページに表示されます。ノブ4は各ページ固有のものです。

2•15



- Variax Control (ノブ1—ページ7a、7bおよび7c) : [2•11ページ](#)をご覧ください。
- Model (ノブ2—ページ7a、7bおよび7c) : Variaxベースのモデルを選択します。VariaxベースのモデルをPOD HD500Xに保存されたモデルに置き換えたくない場合は「Don't Force」を選択してください。
- Blend (ノブ4—ページ7a) : このノブを調整することで、ベースのネック側とブリッジ側のピックアップのバランスを取ることができます。
- Bass (ノブ4—ページ7b) : 低域の量を調整します。
- Treble (ノブ4—ページ7c) : 高域の量を調整します。

## ページ8、James Tyler Variax Tuning Options

ページ8 Setup画面は、James Tyler Variaxギターのチューニング・オプションを表示します\*。これにより、接続されたJTVギターのオルタネート・チューニングの設定やエディットを行い、あらゆるPOD HD500Xのプリセットと一緒に保存することができます。

注：このチューニング機能はJames Tyler Variax ファミリーのギターのみで使用できます。JTVが接続されていない（または第一世代のVariaxが接続されている）場合、この画面に選択可能なオプションは表示されません。



- **Variax Tuning**（ノブ1）：JTVギターのチューニングがPOD HD500Xのプリセットに影響されないようにするには「Don't Force」を選択してください。自分のチューニングを作成したい場合は「Custom」を選び、現在のプリセットに保存してください。
- **String Select**（ノブ3）：音程を変えたい弦（1から6）を選択します。
- **Note Offset**（ノブ4）：プラスまたはマイナスを選択して、選択されている弦を半音ずつ上げる、または下げると画面上部のチューニング・グラフィックに反映されます。例えば、上記のスクリーンショットでは低いE(6弦)を半音2つ下げてDの音\*にしています。

注：オフセット数値は常に正確です。使用しているギターがA=440Hzでスタンダード・ピッチ（EADGBE）でチューニングされているという前提で音程が表示されます。

## ページ9、Setup : L6 LINK Audio



2•17

これらのオプションは、L6 LINKを使用してPOD HD500Xのオーディオ信号をLine 6 DTシリーズのアンプ（4台まで）およびStageSource™パワード・スピーカーに接続するための設定を行います。4台のアンプの設定は各プリセットに保存されます。複数のDTアンプおよびStageSourceスピーカーがPOD HD500X—L6 LINKアウトプットに接続されている場合、各々が画面上に表示されます。例えば上記のスクリーンショットでは、「DT50」は#1アンプの位置に接続されています（これらはインジケーターのラベルのみであり、プリセットには保存されません）。

**1-4アンプ・オプション—L6 LINKで接続されている各DTアンプおよびStageSourceスピーカーに送られるPOD HDのオーディオ信号を選択してください。各アンプに送られるL6 LINKの信号はモノです。**

- POD HDのメインのアウトプット信号をL、R、L/R（モノにまとめられる）のいずれにするかを選択してください。
- POD HDのアンプ・モデルのアウトプットを1つまたは2つから選択してください—アンプ・モデルA、アンプ・モデルB、またはアンプ・モデルA/Bの両方。
- 接続されているDTアンプまたはStageSourceスピーカーを無音にするには、ミュートを選択してください。これは、DTアンプおよびStageSourceスピーカーにL6 LINKで接続されている場合に便利です\*。StageSourceを「ミュート」状態でPOD HDのプリセットを保存し、エレキ・ギターのサウンドをDTアンプからのみ聞こえるように設定したり、別のプリセットでDTアンプを「ミュート」にしてアコースティック・ギターをStageSourceスピーカーからのみ聞こえるように設定したりすることができます。Line 6 Variaxギターを使用している場合、これらエレキおよびアコースティック・ギターのセッティングもPOD HDのプリセット内に保存することができます。

\*注：StageSourceスピーカーは、L6 LINKの信号のチェーン内では必ず最後の位置に接続してください（例：POD HD500X > DT50 > StageSource L3）。L6 LINK接続、DTシリーズのアンプおよびStageSourceスピーカーについての詳細は、弊社ウェブサイト (<http://line6.jp/support/manuals/>)。

## ページ10、Setup : L6 LINK Control



これらのオプションにより、接続した最大4台までのLine 6 DT50またはDT25アンプがPOD HD500X Ampモデル&セッティングにどのように追従するのかを設定することができます。DT50アンプ1～4に接続したL6 LINKに対して、パラメーター1～4がそれぞれ対応します。

- 各DT50を個々に設定し、現在選択されているプリセットのAmp Model AまたはAmp Model Bのどちらかに従わせることができます。
  - DT50は、選択したアンプ・モデルAまたはBに適したパワーアンプのトポロジー・Topologyセッティングを自動的に設定します。
  - DT50アンプ・コントロールも同様に、選択したアンプ・モデルAまたはBに同期されます。
- あるいは、MIDIチャンネルを選択してDT50のMIDIコミュニケーション・チャンネルに設定することができます。これにより、それぞれのDT50が(POD HD500Xアンプ・モデルではなく)本体に内蔵されているアンプ・モデルを利用する効果設定し、またそれ自身のフロント・パネル・コントロールを、同じMIDIチャンネルに設定されている他のDT50アンプと「同期」させることができます。

\*注:これらのL6 LINKコントロール・セッティングはDTシリーズのアンプでのみ使用可能であり、接続されているLine 6 StageSourceスピーカーでは無視されます。StageSourceスピーカーはMIDI CCメッセージには対応していません。

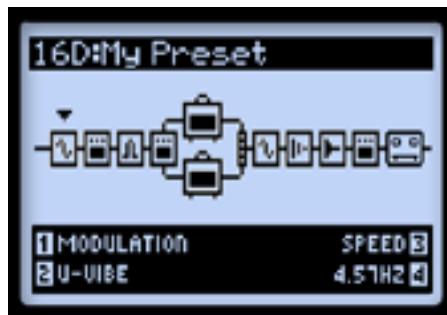
# 3 - 特徴&機能

この章では POD® HD500X が提供する主な特徴と機能について詳しく説明します。

## エフェクト・ブロック

各プリセットには常に合計 8 種類のエフェクト・ブロックがあり、それにどのようなエフェクト・モデルも読み込むことができます（エフェクト・ループも例外ではありません。詳しくは次のセクションをご覧ください）。シグナル・フロー・ビューの画面でエフェクト・ブロックを選択すると、マルチファンクション・ノブ 1～4 で調整可能なオプションが画面下に表示されます。

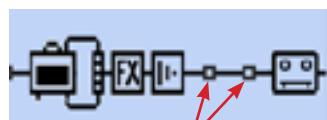
3•1



エフェクト・ブロックを選択した状態のシグナル・フロー・ビュー

- ノブ 1—モデル・タイプ: エフェクト・モデルの中から選択します。

- 選択したブロックへエフェクトを読み込まない場合は、None を選びます。ブロックが何も無い状態で表示されますが、この状態で移動したり、新しいモデルを読み込んだりすることができます。トーンの DSP 使用量を最小限に留めるためにも、必要のないエフェクト・ブロックを None に設定しておくことをお勧めします（[3•14 ページの「ダイナミック DSP」](#) 参照）。



モデルを「None」に設定した場合のエフェクト・ブロック

- ノブ 2—エフェクト・モデル: モデル・タイプの一覧から気に入ったモデルを選びます。

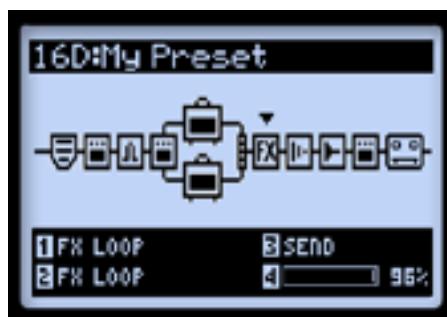
- ノブ 3—エフェクト・パラメーター：調整可能な最大5種類のパラメーターの中から選べます。あるいは**ENTER**ボタンを2度押しして全モデルのパラメーターが表示されている画面にアクセスすることができます。[5•1ページの「5 - エフェクト・エディット・モード」](#)参照。
- ノブ 4—パラメーター値：選択したパラメーターの値を調節します。

各エフェクト・ブロックには以下の機能も備わっています：

- On/Off：**ENTER**ボタンを1回押せばエフェクト・ブロックの「On」と「Off」が切り替わります。「Off」の場合、信号は処理されないままエフェクト・ブロックを通過します。
- エフェクトの位置を移動：各エフェクト・ブロックはシグナル・チェーン内を移動させることができます。柔軟性の高いルーティングが可能です。アンプの前（「Pre」）、アンプの後ろ（「Post」）、パラレル・パス A&Bの中の気に入った場所にエフェクト・モデルを置きます。詳細は[6•1ページの「アンプ・モデルの位置決め」](#)をご覧ください。
- プリセット毎に保存：全てのエフェクト・ブロック位置、読み込まれたエフェクト・モデルとトーンの中の全てのエフェクト・パラメーター値が各プリセットと共に保存されます。

## FX Loop

8つのエフェクト・ブロックのいずれにも、エフェクト・モデルの代わりにFX Loopを読み込むことができます。これにより POD HD500X ハードウェアのエフェクト・ループを、信号経路内であればどこでも好きな所に置くことができます。パラレル・パス A や B の中でも可能です！



エフェクト・ループを選択したときのシグナル・フロー・ビュー

**SEND & RETURN**端子を経由して送られた信号の音を聞くには、プリセット内のエフェクト・ブロックのひとつに「FX Loop」を設定する必要があります。

エフェクト・ループに関するオプションは、シグナル・フロー・ビューやエディット・モード画面の下部に表示されます。ENTERボタンを1回押して、FX Loopの「On」と「Off」を切り替えることもできます。エフェクト・ループの位置と全てのパラメーター値はプリセット毎に保存されます。[7•1ページの「7 - エフェクト・モデル」](#)をご覧ください。

## アンプ・ブロック

アンプ・ブロックは、信号経路上の「Pre」か「Post」の位置やパラレル・パスA内にひとつ置くことができます。あるいは、以下のようにパスA & B内に置けば2台のアンプを使用することができます。エフェクト・ブロックと同様に、アンプ・ブロックのOn/Off切り替えも可能であり、いくつかのエディット可能なパラメーターが含まれています。しかし、アンプに関しては利用可能な機能がさらにあるため、詳細に関しては[6•1ページの「6 - アンプ、キャビネット&マイクモデル」](#)を参照してください。



2つのアンプ・ブロックを持つプリセット

## ミキサー・ブロック

ミキサーは常にパラレル・パスA & Bの後に位置し、各パスへ出力される信号が「Post」位置へ送られる前にLevelとPanを個々にコントロールすることができます。シグナル・フロー・ビューの中でミキサーを選択すると、その4種類のパラメーターが画面下に表示され、マルチファンクション・ノブ1~4でアクセスすることができます。

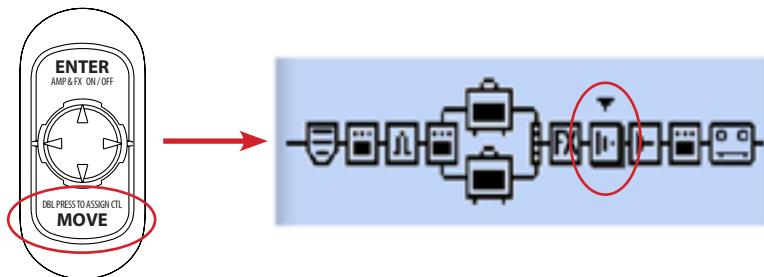


ミキサー・ブロックを選択したときのシグナル・フロー・ビューに表示される4種類のパラメーター

- **Volume A (ノブ 1)** : パス A アウトプットのボリュームレベルをコントロールします。0dBはがユニティ・ゲインです。
- **Volume B (ノブ 2)** : パス B アウトプットのボリュームレベルをコントロールします。0dBはがユニティ・ゲインです。
- **Pan A (ノブ 3)** : パス A アウトプットの左／右ステレオバランスを調整します。
- **Pan B (ノブ 4)** : パス B アウトプットの左／右ステレオバランスを調整します。

## エフェクト・ブロックを移動する

8つのエフェクト・ブロックは、トーンの信号絶路上で自由に移動させることができるので、柔軟性の高いルーティングが楽しめます。エフェクト・ブロックを移動させるときは、始めにシグナル・フロー・ビューの中から移動させたいエフェクト・ブロックを選びます。**MOVE**ボタンを押すと、選択したエフェクト・ブロックが「持ち上げられたように」表示され、移動可能になったことを示します。



MOVEボタンを押して、エフェクト・ブロックの位置を移します。

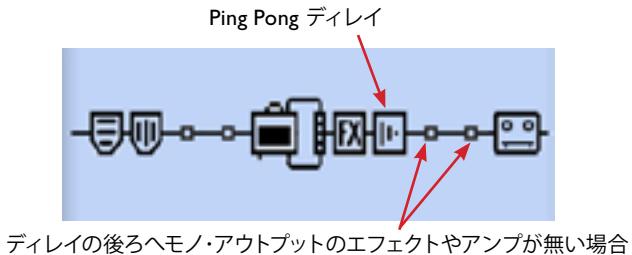
3•5

FXブロックは以下のように移動できます:

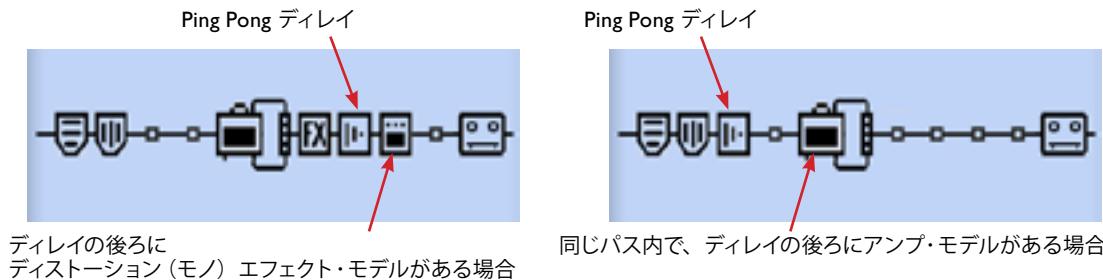
- ◀▶ナビ・ディスク・ボタンを使用して、エフェクト・ブロックを好きな位置へ移動させます。
- エフェクト・ブロックをパスAかBどちらかの中へ移し、パス内のアンプ・モデルの前か後ろへ置きます。◀▶ナビ・ディスク・ボタンを使用して、エフェクト・ブロックを反対側のパスへ移動させます。これにより、エフェクトを「パラレル」に作動させ、ミキサーのLevel & Panオプションを使用して個々のパスA&Bアウトプットをブレンドすることができます！
- エフェクト・ブロックを置きたい場所が決まったら、MOVEボタンを再び押し、その位置でドロップします。
- アンプ・ブロックはPreやPostの信号経路の範囲内、あるいはパスA & B内の定位置に移動させることができます。[6•1ページの「アンプ・モデルの位置決め」](#)を参照してください。
- ルーパーもまた、選択して信号経路の始め（「Pre」）か終わり（「Post」）のどちらかへ移動させることができます。[8•1ページの「8 - ルーパー・モード」](#)を参照してください。

## モデル・タイプとモノ/ステレオ・シグナル・ルーティング

ステレオ効果のアウトプットを生み出すモデル（主にモジュレーションやフィルター、ピッチ、ディレイ、リバーブ、ボリュームとパン・モデル）と、逆にモノ・アウトプットのモデル（大半のダイナミクスやディストーション、EQ、ワウ・モデル、全てのアンプ&プリアンプ・モデル）があることに注意してください。POD HD500X インプット 1 & 2 は、ステレオとしてシグナル・チェーンに送られます（[2•4ページの「ページ 3、Setup : Input」](#) 参照）。従って、モノ・エフェクトやアンプ・モデルがどこに挿入されたとしても、このステレオ・シグナルの左右のチャンネルは「モノラル化」され、モデルのアウトプットで 2 チャンネルのモノ・シグナルとして聞こえます。以下がその例です：



- 上記のように、Ping Pong ディレイ（ステレオ出力のエフェクト・モデル）を他のエフェクトやアンプ・モデルの後に置くと、そのディレイが左と右のアウトプット間を行き交うのがわかるはずです。



- Ping Pong ディレイをモノ・エフェクト・モデル（左上参照）や、同じパス内のアンプ・モデル（右上参照）の直前に置いた場合は、ディレイが「モノラル化」され、左右両方のアウトプットで同じように聞こえます。
- エフェクト・ループは、SEND 端子からステレオ・ケーブルを使用した構成であれば、ステレオ出力のエフェクト・モデルと同様に、ステレオ信号をペダル／ラック機器を通して RETURN 端子へ戻すができます。

- パラレル・パスAとBそれぞれもステレオのシグナル・パスであるため、上記と同じルールが当てはります。ミキサー・ブロックは、その直後にある最初の「Post」エフェクト（あるいはアンプ・ブロック）へシグナルを送る前に、各パスのステレオ・バランスを独立コントロールします。
- シグナル・フローに関するさらに詳しい情報は、[6•1ページの「アンプ・モデルの位置決め」](#)をご覧ください。

## エクスプレッション・ペダルのアサイン

POD HD500Xには、「オン・ボード」ペダル用に**EXP 1**と**EXP 2**の2種類のペダル・モードがあり、そのどちらにもエフェクト・モデルやFX Loopパラメーターを割り当てて自在にコントロールすることができます。\*エクスプレッション・ペダルをPOD HD500Xの背面にある**PEDAL 2**インプットに接続すれば、オン・ボードのペダルで**EXP 1**を、ペダル2で**EXP 2**をコントロールすることができます。

**EXP 1**と**EXP 2**ペダル・モードはそれぞれ独立したエフェクト・パラメーターのコントロールを割り当てることができます。ここで行った**EXP 1** & **EXP 2**のアサインと全ての設定はプリセット毎に保存されます。

3•7

トーンにワウ・エフェクト・モデルを加えると、ワウの「Position」パラメーターは自動的に**EXP 1**に割り当てられます。同様に、ボリュームやパン・エフェクト・モデルを加えると、その「Position」パラメーターは自動的に**EXP 2**に割り当てられます。その結果、既にペダルの割り当てが行われている場合は、複数アイテムがこれらのエクスプレッション・ペダルに割り当てられることになります。全てのファクトリー・プリセットには既にワウ、ボリューム、パンが含まれているため、これらも例外無く割り当てられます。これらのペダル割り当てを変更したり、他のエフェクト・パラメーターに自分だけの割り当てを作ることもできます。続きを読むください！

## EXP 1とEXP 2

-  **PEDAL 2**インプットに追加のペダルが接続されていなければ、ペダルモード**EXP 1**と**EXP 2**のコントロールをオン・ボード・ペダルの「トウスイッチ」で切り替えることができます。赤
-  **EXP 1**と緑**EXP 2**のLEDが点灯し、現在選択されているペダル・モードを示します。（トウスイッチに他の機能を手動で割り当てることも可能です。[3•13ページの「EXP Toe Switchを使用する」](#)参照）

## ペダル2を接続した場合のEXP 1とEXP 2



オプションとして、2台目のエクスプレッション・ペダル (Line 6 EX-1エクスプレッション・ペダル等) を**PEDAL 2**インプットに接続する事もできます。ペダル2が接続されている場合、オン・ボードのペダルは**EXP 1**のみをコントロールし、ペダル2は**EXP 2**のみをコントロールします。ペダル2が接続されているときは、常に**EXP 1 & EXP 2** LEDの両方が点灯します。

## Variaxノブをコントローラーとして使用

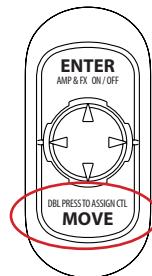
3•8

Line 6 Variaxギターのボリュームおよびトーン・ノブは、あらゆるPOD HD500XアンプまたはFXパラメーターをコントロールするようアサインすることができます。POD HD500Xのパラメーターをリモート・コントロールする場合、同時にVariaxギターのボリュームまたはトーンを変えてしまわないようにLocal Controlを「ロック」した方が適切な場合もあります。詳細は[2•11ページの「ページ7、Setup: Variax」](#)をご覧ください。

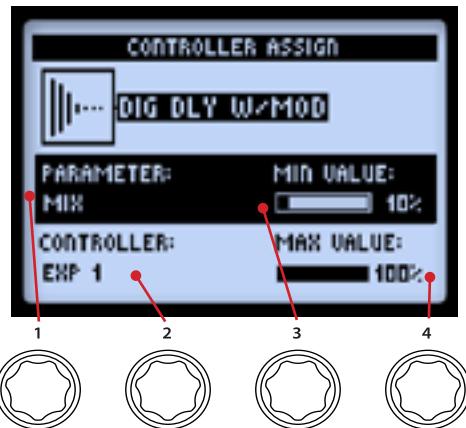
## アンプ & エフェクト・パラメーターをコントロールする

エクスプレッション・ペダルおよびVariaxノブ・コントローラーのアサインはController Assign画面で行います。シグナル・フロー・ビューの中でエクスプレッション・ペダルに割り当てたいアンプまたはFXブロックを選択し、**MOVE**を2度押します。この例では、シグナル・フロー・ビューの中でディレイのFXブロックを選択し、EXP-1ペダルでコントロールするよう設定します。

ヒント：エクスプレッション・ペダルおよびノブ・コントローラーは、最大で50以上のPOD HDのパラメーターを同時にコントロールすることができ、ペダルまたはノブの動きひとつでサウンドにさまざまな変化を与えることができます。プリセット内の複数のパラメーターを共通のコントローラーでコントロールするには、以下の手順に従ってください。



選択したモデルのためのController Assign画面が表示されます。この例では、Dig Dly W/Modです。マルチファンクション・ノブ1～4を使用して、ペダル・コントローラー割り当てオプションを設定します。



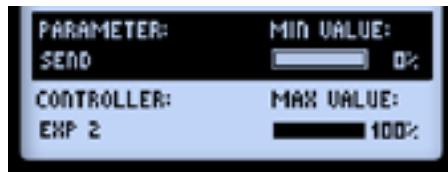
Controller Assign 画面

- Parameter (ノブ 1) : コントロールしたいモデルのパラメーターを選びます。\*この例では、Mix パラメーターを選びます。
- Controller (ノブ 2) : パラメータにアサインしたいコントローラーを選択します。アサインしない場合はOff、または内容に応じてEXP 1、EXP 2、Variax Vol、Variax Toneを選択してください。
- Min Value (ノブ 3) : ペダルの「ヒール」(かかと側) またはノブの最小の位置の数値を設定してください。
- Max Value (ノブ 4) : ペダルの「トウ」(つま先側) またはノブの最大の位置の数値を設定してください。

注意 : [3•7ページ](#)で記載されているように、トーンにワウやボリューム／パン・エフェクト・モデルを加えると、それらのPositionパラメーターは自動的にEXP 1& EXP 2に割り当てられます。これらのワウ＆ボリューム/パン EXP割り当ては、割り当てた他のパラメーターに加えて保持されるため、ペダルが複数のパラメーターをコントロールすることになります。不必要的モデルのEXP割り当てがあれば、必ずController Assign画面で外すようにしてください。

## 特徴&機能

コントローラーの割り当てをFX Loopパラメーターへ設定する場合、上記のようにシグナル・フロー・ビューの中でエフェクト・ループ・ブロックを選ぶだけでController Assign画面へ移ります。



3•10

エフェクト・ループの Controller Assign オプション

注意: コントローラーにエフェクトモデル・パラメーターが割り当てられている場合、このパラメーター値を手動でエディットすると、コントローラーのMINやMAX値が変わります。例えば、EXP-1ペダル・コントローラーがワウ・エフェクトモデルのPositionパラメーターに割り当てられている場合は、Wahモデルを選び、Edit画面に移動してPositionパラメーターを選びます。ペダルが「ヒール」位置に近い場合は、マルチ・ファンクション・ノブ4を回してMIN値を調整することができます。ペダルが「トウ」位置に近い場合は、ノブを回してMAX値を調整することができます。

## エフェクト&アンプ・ブロック・フットスイッチ・アサイン

各**FS1～FS8**フットスイッチは、エクスプレッション・ペダルの「トウスイッチ」と同様に、エフェクトやアンプ・ブロックのオン/オフ切り替えを設定することができます。現在設定されているプリセットのエフェクト・フットスイッチ割り当てを参照したい場合は、**VIEW**ボタンを押してパフォーマンス・ビュー画面を表示させます。**FS1～FS8**の割り当ては、現在の Setup - FS Mode の設定によって異なります（[2•2ページの「ページ 1、Setup : Utilities](#) 参照）：



FS1～FS8へのエフェクトの割り当て



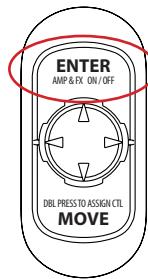
FS5～FS8への ABCD の割り当て

8・1ページの「ルーパー・フットスイッチ・コントロール&パフォーマンス・ビュー」で既に述べたように、ルーパーがアクティブの場合パフォーマンス・ビュー画面には一連のルーパー機能が表示されます。

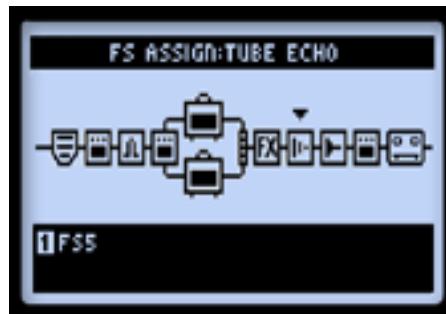
3-11

## エフェクトやアンプ・ブロックをフットスイッチへ割り当てる

シグナル・フロー・ビューの中から、フットスイッチに割り当たいエフェクトやアンプ・ブロックを選びます。一例として、ディレイ・エフェクト・ブロックを選択します。次に **ENTER** ボタンを長押しして FS Assign 画面を表示させます。



アンプかエフェクト・ブロックを選択し、ENTER ボタンを長押しします。



ディレイ・エフェクト・モデル選択した場合の Footswitch Assign 画面

マルチファンクション・ノブ1を使用して、このエフェクト・ブロックを割り当てるためのフットスイッチを選びます。FS1からFS8まで、EXP Toe Switchを選択します。またはNoneを選んでブロックの割り当てを外します。以下のような動作になります：

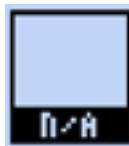
- エフェクトやアンプ・ブロックが既にフットスイッチに割り当てられている場合：現存のブロックは割り当てを維持し、このフットスイッチを選ぶことで追加的に新しくブロックを割り当てます。パフォーマンス・ビューを見ると、フットスイッチが「Multi」グラフィックを表示し、この状態を示しているのがわかります。2種類以上のパラメーターを同じフットスイッチに設定し、それらのOn/Offを同時に切り替えることができます。あるいは一方をOnに切り替え、もう一方をOffに切り替えることも可能です！



フットスイッチに複数のブロックが割り当てられていることを示します

ヒント：現在設定されているフットスイッチの割り当てを見る場合は、FS Assign画面から◀▶ナビ・ディスク・ボタンを使って画面下の各ブロックを選択し、それぞれのノブ1セッティングをご覧ください。

- フットスイッチにブロックが1つも割り当てられていない場合：それぞれのフットスイッチに対応するパフォーマンス・ビューの中にN/Aグラフィックが表示されているのがわかります。



フットスイッチにブロックが1つも割り当てられていないことを示します

## EXP Toe Switchを使用する

[3•7ページの「エクスプレッション・ペダルのアサイン」](#)で記載されているように、トーンにワウやVolume/Panモデルを加えると、それらのPositionパラメーターは自動的に**EXP 1**と**EXP 2**ペダル・モードに割り当てられます。この設定済みのWah/Volume切り替えが、ほぼ全てのファクトリー・プリセットに含まれています。しかし、新しく加えたエフェクト・モデルに対し、トウスイッチの割り当ては自動的に設定されないため、ここに手動による設定方法を説明します。

- 上記の手順に従って、Wahモデルを選択した状態でFS Assign画面へ行き、そのエフェクト・ブロックを**EXP TOE SWITCH**へ割り当てます。これにより、ペダルのトウスイッチを通じて、ワウのOn/Offを切り替えることができます。



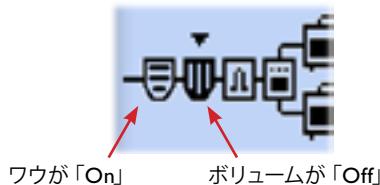
エフェクト・ブロックをオン・ボード・ペダルの「トウスイッチ」へ割り当てる

さらに、異なるエフェクト・パラメーター（Volume Position等）が反対側のEXPペダル・モードでコントロールされていれば、コントロール中に任意のモデルだけをアクティブにすることができるですから、トウスイッチで両方のエフェクトのOn/Offを交互に切り替えることができれば便利だと考えるでしょう。例えば、ワウが**EXP 1**、ボリュームが**EXP 2**でコントロールされている所にプリセットがあるとします：

注意：追加のペダルが**PEDAL 2**に接続されている場合、ワウとボリュームは既に2台のペダルによって個々に操作されるため、以下の設定を使う必要はないかもしれません。

- **EXP TOE SWITCH**を踏むと、赤の**EXP 1** LEDが点灯します。
- シグナル・フロー・ビューの中で、ボリューム・エフェクト・ブロックを選択し、**ENTER**ボタンで「Off」に切り替えます。ワウが「On」、そしてボリュームが「Off」になったことがわかるはずです。

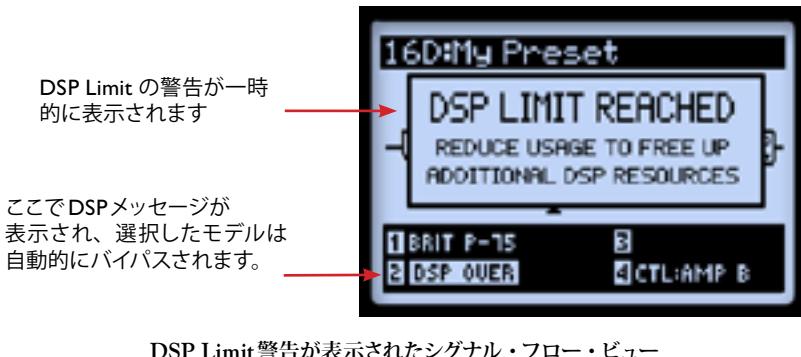
3•14



- 既に述べたフットスイッチの割り当て手順を繰り返し、ワウとボリュームの両方にそれぞれ**EXP TOE SWITCH**を割り当てます。
- **EXP TOE SWITCH**を踏んでこのプリセットに**EXP 1**を選択するたびに、ペダルでコントロールされてボリューム機能が「Off」に、そしてワウ機能が「On」に切り替わります。**EXP 2**に切り替えた場合は、この逆の動作を得ることができます。
- このセッティングは必ずプリセットと共に保存してください!

## ダイナミック DSP

POD HD500Xはサウンドに関する膨大な可能性を提供しますが、それにはかなりのデジタル・シグナル・プロセッシング (DSP) パワーが必要となります。我々は、モデルやシグナル・ルーティングのオプションを減らしてクリエイティブな潜在力を制限するのではなく、DSPのリソースをトーン・コンフィギュレーションへダイナミックに割り振ることのできる「ダイナミックDSP」システムを採用することにしました。その結果、非常に大きなパワーを必要とするDSPモデルを複数使用したトーンを作成する場合には、プロセッシング・パワーの限界を超してしまうことがあります。この場合には**DSP LIMIT REACHED** (DSPの限界に達しました) と表示され、トーンをアクティブにするため、選択されたモデルがバイパスされます。



この例では、モデルを2台目のアンプに変更しようとすると、DSPの制限を越えてしまいます。そのため、**DSP LIMIT REACHED**というメッセージが一時的に表示され、メッセージにあるように、選択されたAmp Bモデルは自動的にバイパスされます。こうしてDSPの限界に達した場合には、DSPリソースを解放するためにいくつかのオプションが考えられます。

- 他のアンプ・モデルを使用する。HDアンプ・モデルの中には、より多くのDSP能力を必要とするモデルがいくつかあるため、違うアンプ・モデルに切り替えてみてください。
- 2種類ではなく、1種類のアンプ・モデルだけを使用する。
- アンプやエフェクトモデルを「Off」に切り替えるか、ブロックのモデルを「None」に設定してみてください（[3•1ページの「エフェクト・ブロック](#)参照）。ピッチ・シフターとリバーブ等、いくつかのエフェクト・タイプにはより多くのDSP処理能力が使われます。

**注意：**アンプやエフェクト・ブロックを「None」に設定する方が、そのブロックのモデルをオフへ切り替えるよりも、DSP使用率を大幅に減らすことができます。

- 気に入ったトーンがカスタマイズできたときは、後から呼び出せるように保存しておくと便利です。



# 4 - セットリスト&プリセット

この章では全てのPOD® HD500Xトーンを使いこなすために、知っておくべきセットリストとプリセットを使った作業について説明します。

無償提供されるLine 6 POD HD500Xエディット・ソフトウェアも忘れずにチェックしてください。Mac®やWindows®コンピュータ上でPOD HD500Xのセットリスト & プリセットを数に制限なく作成、カスタマイズ、管理することができます! "["POD HD500Xエディット・ソフトウェア" on page 1•5](#)をご覧ください。

## セットリストを使って作業をする

4•1

POD HD500Xは、8種類のセット・リスト内に最大64プリセットを保存できます。そのセット・リストのひとつをロードして、完全な設定を保存したなどのプリセット位置にもアクセスしたり、そこからプリセットをロードすることが可能です。

### セットリストにアクセスする

**PRESETS**ノブを押して Set Lists 画面を表示させます。



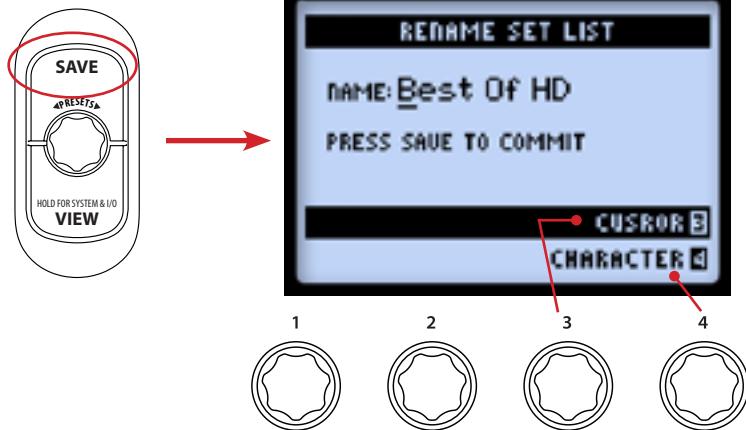
Set Lists 画面

セットリストを読み込む: と ナビ・ディスク・ボタンを使用するか、**PRESETS**ノブを回してセットリストを選び、次に **ENTER** ボタンを押します。これにより選んだセットリストが直ちに読み込まれ、そのプリセット全てが利用可能になります。前回読み込んだプリセットは自動的にキャンセルされ、新しいセットリストから同じバンク/チャンネル位置番号のプリセットが読み込まれることに注意してください。

## セットリスト&プリセット

セットリストのリネーム：セットリストを選択した状態で、**SAVE**ボタンを押してRename Set List画面を表示させます。

4•2



セットリストのネームをエディットするときは、マルチファンクション・ノブ3を使用して文字の位置を選び、ノブ4を使用してその文字をエディットします。エディットが終了したら、再び**SAVE**を押して新しいネームを確定すると、Set Lists画面に再び戻ります。ただ**PRESETS**ボタンを押すと、ネーム変更を確定せずにSet Lists画面に戻ることができます。

### セットリスト内のプリセットを並び替える

Set Lists画面の中で2度**ENTER**ボタンを押すと、現在選択中のセットリストの中のプリセットリストが表示されます。ここで各プリセットのバンク/チャンネルの場所を参照し、プリセットを読み込んだり、好きな順序にプリセットを並び替えることができます。

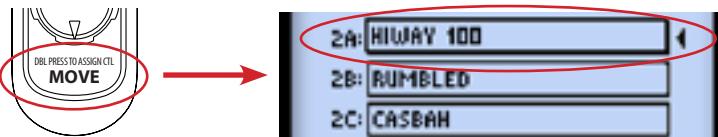


Set List—Presets 画面

プリセットを読み込む：▲ ナビ・ディスク・ボタンか、**PRESETS**ノブを使用して64箇所の中からどれかを選びます。あるいは、◀▶ ナビ・ディスク・ボタンを使用してリストの中のバンクを1つずつ目を通してします。**ENTER**ボタンを押すと、選んだ場所のプリセットが直ちに読み込まれます。

プリセットを移動する：ここで例として「HIWAY 100」プリセットを2Aの場所から2Cへ移動してみましょう。

- 2Aの場所を「HIWAY 100」用に選択し、**MOVE**ボタンを押します。選択したプリセットが「持ち上げられたように」表示され、移動可能になったことを示します：



4•3

- ナビ・ディスク・ボタンか**PRESETS**ノブを使用して、2Cの移動先を選びます。新しくバンク／チャンネルの場所を選ぶと、その結果となるプリセットの順序が画面に表示されることに注意してください。例として「HIWAY 100」を2Cへ入れたことで、プリセットの中の元の位置（2A）から移動先（2C）へスロットが変わります：



「Hiway 100」が2Aから2Cへ移動

- プリセットを好きなチャンネルの位置へ置いたら、**MOVE**ボタンを再び押してスロットの中へ「ドロップ」します。

## セットリスト&プリセット

- 気に入った順序に並び替えるプリセットが他にある場合は、上記の手順を繰り返してください。変更を全て確定させるためには、**PRESETS**ボタンを必ず押してください。変更を保存中であることを示す「Saving」画面が表示されます。



Set List Saving 画面

4•4

## プリセットを使って作業をする

POD HD500Xの中の8個のセットリストには、それぞれプリセットを保有するための64個のメモリーが含まれています。これらのセットリストとプリセットは、POD HD500Xの内蔵メモリーに全て保持されています。このガイド全体を通じて示されているように、各プリセットには、現在使用中の全てのエフェクト & アンプ、それら全てのパラメーター、シグナル・フロー内のそれらの位置、フットスイッチ & ペダル割り当て、ミキサーセッティング、そしてインプット & アウトプット・オプションとその他のSetupオプションも同様に含まれています。

### プリセットへアクセスする

ホーム・ビュー画面のどこからでも、**PRESETS**ノブを回すだけで現在選択中のセットリスト内を1つずつ確認することができます。現在読み込まれているバンク/チャンネル番号とプリセット・ネームがホーム・ビュー画面の上部に表示されます。(プリセットに変更を加えた後も内容をそのまま保持したい場合は、他のプリセットを読み込む前に、必ず保存してください!)



**PRESETS**ノブを回して1つずつプリセットを確認します

なお、Set List - Preset画面内からセットリストの中に存在するプリセットにアクセスする（["セットリストを使って作業をする"](#)参照）か、POD HD500Xのフットスイッチを使用してアクセスすることも可能です。

## バンク&チャンネル・フットスイッチ

バンク・アップ▲、バンク・ダウン▼、チャンネル**A**、**B**、**C**、**D** (**FS5～FS8**) フットスイッチを利用してことで、全くの「ハンズフリー」でプリセットを選択することができます。その場合は、Setup - FS Mode セッティングを「ABCD」に設定し、**FS5～FS8**が即座にチャンネル位置へアクセスできるようにしておく必要があることに注意してください（["ページ 1、Setup : Utilities" on page 2•2 参照](#)）。



バンク・アップ &amp; ダウン

チャンネル A、B、C、D フットスイッチ (FS5～FS8)

4•5

- A**、**B**、**C**や**D**スイッチを押すと、現在選択したバンク内のそのチャンネル位置が即座に呼び出されます。
- バンク全体をナビゲートするときは、バンク・アップかバンク・ダウン・フットスイッチを押します。現在選択されているバンク/チャンネルが点滅しているQueued Bank画面が表示されます：



次のバンクが並ぶ Queued Bank 画面

- バンク・ダウンやバンク・アップ・フットスイッチを押し続けると、前/次のバンクの**A**、**B**、**C**、**D**チャンネルとそれらのプリセットが「queued」として並びます。次に**A**、**B**、**C**や**D**フットスイッチを押して、気に入ったバンクからそれぞれのプリセットを読み込みます。

### プリセットの保存

プリセットに対して行った変更を保ちたい、リネームしたい、または現在選んだプリセットを移動したい、という場合にはSave機能を使います。現在のプリセットが「未保存」の場合、シグナル・フロー・ビューの中でアスタリスク (\*) が表示されます。



\*が付いているプリセットは、まだ保存されていないことを意味します

4•6

変更を行ったプリセットを保持したい場合は、他のプリセットを呼び出す前に忘れずに保存してください！

**SAVE**ボタンを押してSave Preset画面を表示させます。



Save Preset画面

マルチファンクション・ノブ1～4を使用して保存機能を選びます。

- **Set List**(ノブ 1) : プリセットの保存先を8個のセットリストの中から選びます。デフォルトにより、現在読み込んだセットリストが表示されます。
- **Destination**(ノブ 2) : プリセットの保存先となるセットリスト内で、特定のバンク／チャンネル位置を選びます。保存を確定すると、保存先とした場所の中のプリセットに上書きするため、以前の内容は永久的に失われることに注意してください。現存するプリセットと置換したくない場合は、空の場所を選んでください。

- **Cursor & Character (ノブ 3&4)** : プリセットをリネームするときは、ノブ3を使用して文字の位置を選び、ノブ4を使用して選んだ文字をエディットします。

ヒント！ プリセットのネーミングをスピーディーに行う … ナビ・ディスク・ボタンを使用して、カーソルを左右に移動させます。現在選択されている文字をクリアする場合は「ダウン」を押します。「アップ」を押すと、最初の文字が大文字、小文字、数字、空白と順に変わります。

上記のセッティングが終了したら、**SAVE**ボタンを押して確定します。また、保存操作をキャンセルする場合は、**RESETS**ノブか**VIEW**ボタンを押します。

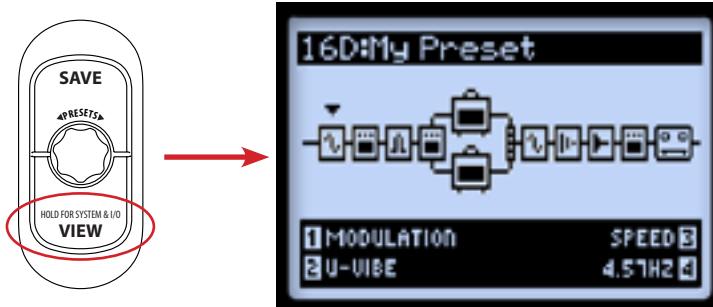


# 5 - エフェクト・エディット・モード

この章では、エフェクトのために用意されたエディット・モードについて説明します。このモードからエフェクト・モデルとエフェクト・ループのエディット可能なパラメーター全てにアクセスすることができます。(Amp モデルに関する詳細は、[6・7ページの「アンプ・パラメーターをエディットする」](#)をご覧ください。) エディット・モードで行った変更は全てプリセット毎に保存されます。

## エフェクト・エディット・モードにアクセスする

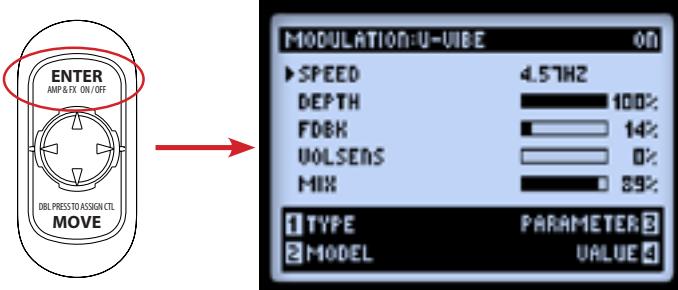
最初に **VIEW** ボタンを押してシグナル・フロー・ビューを表示させ、次にエディットしたいエフェクト・ブロックを選びます。



5・1

シグナル・フロー・ビュー—モジュレーション・エフェクト・ブロックが選択されている場合

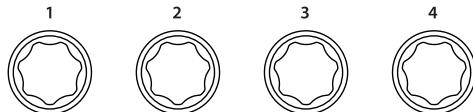
◀▶ナビ・ディスク・ボタンを使用して、エディットしたいブロックを選びます。例では、現在モジュレーション・モデルが読み込まれている最初のブロックが選択されています。選択したブロックのエフェクト・モデルに対し、いくつかのオプションをエディットする場合は、シグナル・フロー・ビューの表示中にマルチセレクト・ノブ1～4を使用して行なうことができますがエディット・モード画面に入ることで、全てのパラメーターにへ即座にアクセスすることができます。**ENTER** ボタンを2度押しすると、エディット・モードが表示されます。



エフェクト・エディット・モード—Modulation: U-Vibe エフェクト・モデルが読み込まれている場合

## エフェクト・エディット・モード

マルチファンクション・ノブ1～4を使用して、エディット・モード画面下方に表示されている、それぞれ番号の付いているオプションにアクセスします。



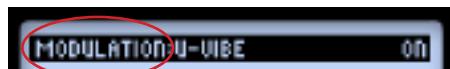
マルチファンクション・ノブ

エディット・モード画面の表示中にこれらのノブを使用すると、以下の機能にアクセスすることができます。

5•2

### ノブ 1—タイプ

このブロックの位置に挿入したいエフェクト・モデルのタイプを選びます。画面上部に選んだタイプが表示される **s y**。その右にモデルのOn/Offも表示されます。



- **None**: ブロックからエフェクト・モデルを外すときは、「None」を選びます。
- **エフェクト**: エフェクト・タイプのリストから選びます。
- **FX Loop**: 実際にはエフェクト・モデルではありませんが、エフェクト・ループをインサートして、そのオプションも同様にエディットすることができます! [5•3ページの「FX Loop」](#)をご覧ください。

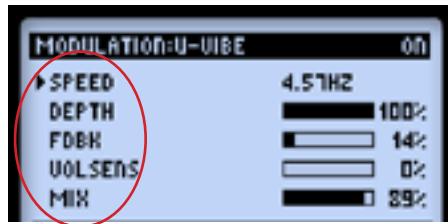
### ノブ 2—モデル

現在選択されているエフェクト・タイプに特定のモデルを選びます。画面上部に選んだエフェクト・モデルが表示されます。



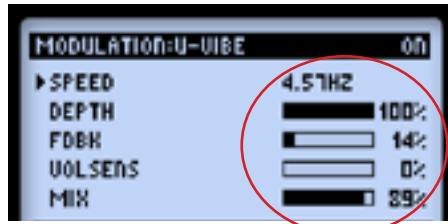
### ノブ 3—パラメーター

◆ ナビ・ディスク・ボタンを使用して表示されているパラメーターの中から選びます。「選択した」パラメーターは、左側に矢印が付いて示されます。



## ノブ 4-値

選んだパラメーターの値を設定します。



5・3

上記で示されるように、数値を使用するパラメーターもあれば、グラフィックのバー表示を使用するパラメーターもあります。

## FX Loop

エフェクト・ループはひとつのFXブロック内にインサートできます。



エフェクト・ループ・エディット・モード画面

## エフェクト・エディット・モード

エフェクト・モデルの場合と同様に、パラメーター & 値のセッティングを調節します。これらのFX Loop エディット・モードの設定はプリセット毎に保存されます。

- Send: FX **SEND** 端子から外部デバイスへ送られる信号レベルを下げます。

注意: POD HD500X の背面に位置する **LINE-STOMP** スイッチを使用して、ラック・エフェクト やペダルに対応するようレベルを選択します。この Send パラメーターは、接続したデバイスに送るレベルをさらに微調整するために使用することができます。

5•4

- Return: ステレオ FX **RETURN** 端子で受け入れる信号レベルを調節します。
- Mix: POD HD トーン信号と、エフェクト・ループ信号をブレンドします。100%に設定されている場合、POD HD500X 信号はフルのまま FX **SEND** 端子へ送られます。0%に設定されている場合、入力信号はエフェクト・ループを完全にバイパスするため、POD HD が処理をした信号のみ聞こえるはずです。**SEND & FX RETURN** 端子間の接続が完全ではない場合は、必ず Mix を 100% 以下に設定するか、エフェクト・ループ・ブロックを「Off」に切り替えてください。そうしないと、POD HD500X のアウトプットから聞こえるのは静寂のみということになってしまいます！

ヒント: ほぼ全てのエフェクトと FX Loop のパラメーターは、オプションとしてエクスプレッション・ペダルのコントロールに割り当てるることができます! [3•7ページの「エクスプレッション・ペダルのアサイン」](#)をご覧ください。

# 6 - アンプ、キャビネット&マイクモデル

この章では代表的なHDギター・アンプ & プリアンプ・モデルの選択とエディットに関する詳細を説明します。これらは全てPOD® HD500Xの驚くべきサウンド・エンジニア・チームによって新たに開発されたモデルです！さらに、スピーカー・キャビネット、マイク・モデル、使用するアンプ・モデルに関する詳細も併せて記載します。

## アンプ・モデルの位置決め

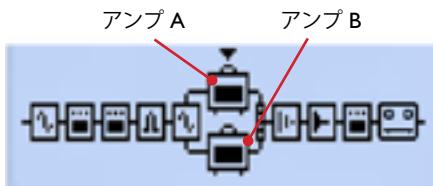
各プリセットで、1台または2台のアンプまたはプリアンプ・モデルを動作させることができます。各エフェクト・ブロックのように、アンプ・ブロックもまた **MOVE**ボタンを使用して別の位置に移動させることができます（[3•5ページの「エフェクト・ブロックを移動する」](#)参照）。ここでは、アンプの位置を変えた場合のシグナル・フローへの影響について説明します。

\*注：マイク・プリアンプ・モデルをお探しですか？ヴィンテージ・プリモデルは、全てのFXブロックの「Preamps+EQ」カテゴリー内にあります。プリアンプ・モデルがFXブロックにある（アンプ・ブロックではなく）ことにより、アンプ・モデルと共に、もしくはアンプ・モデルを使用せずに、シグナル・チェーンのどの位置でも使うことができる柔軟性が実現されています。詳細はページ[7•9ページの「プリアンプ+EQモデル」](#)をご覧ください。

6•1

### パス A & B 内のアンプ

「Dual Tones」セットリスト内のいくつかのファクトリー・プリセットが、既にこの種の設定を利用してしています。1種類のアンプ・モデルを「Pre」位置（パスA/Bが分かれる手前）か「Post」位置（ミキサー・ブロックの後）からパラレル・パスA/Bへ移動させると、自動的に2番目のアンプBブロックがパスBの中に作られます。この設定では、上のアンプが**Amp A**、下が**Amp B**と呼ばれます。



パス A & B 内のアンプ・モデル

この設定における動作は：

- 各アンプ・ブロックは、別のアンプやプリアンプ・モデルに独立設定でき、また編集や有効/向こうの設定を行えます\*。

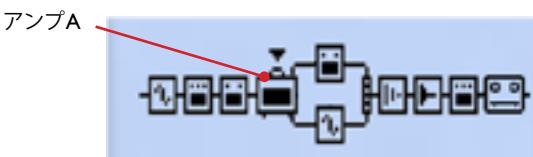
注意：アンプ/プリアンプ・モデルの中には、他よりも多くのDSPを使用するものがあります。2台のアンプを同時に使用するためには、エフェクト・モデルをいくつかバイパス、あるいは外す必要が出てくる場合もあります。詳細は[3•14ページの「ダイナミックDSP」](#)をご覧ください。

- アンプ・ブロックをAやBバス内で動かすことは不可能ですが、エフェクト・ブロックはどちらのバス内でも前や後ろに動かすことは可能です。
- アンプ・ブロックをパラレル・バスA/Bから出す場合には、以下のような操作になります：
  - アンプAを選び、**MOVE**ボタンを押し、次に▶ナビ・ディスク・ボタンを押します。これでアンプBがトーンから外されて、アンプAがポスト位置へ移動し、ミキサーのすぐ後（および「Post」エフェクトの前）に置くことができます。
  - アンプAを選び、**MOVE**ボタンを押し、次に◀ボタンを押します。これでアンプBがトーンから外されて、アンプAがPre位置へ移動し、バスA/Bが分かれるすぐ前（および「Pre」エフェクトの後）に置くことができます。
  - 上記の動作のため、アンプBが選択されている際に**MOVE**ボタンを押しても何も機能しません。

6•2

### Pre や Post 位置のアンプ・ブロック

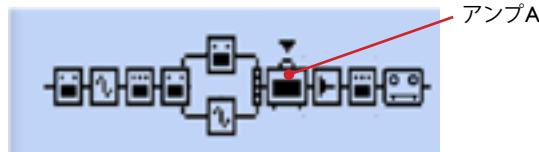
これらの位置では、どちらにあってもアンプ・ブロックは1種類のみ使用可能です。



「Pre」位置（バスA & Bの前）のアンプ

上記のようにアンプが Pre にある場合、1台のアンプが両方のバスA & Bへ信号を送ります。バスAかBのどちらかにエフェクトを動かすことはいつでも可能です。その場合、これらはパラレルになり、各バスのアウトプットがミキサーのA & B Level、Panによってコントロールされる「ポスト・アンプ」エフェクトとして動作します。

インプット1 & 2の両方を使用する（またはこれらのInputオプションにどちらも「SAME」を選ぶ）と、Pre位置のアンプやモノ・エフェクトモデルに2つの入力信号を結合して送るようになるため、信号レベルが上がり過ぎることがあります。プリ位置のモデルのオーバーロードを避けるために、楽器のボリュームは必要に応じて下げてください。



「Post」位置（パスA & Bの後）のアンプ

上記のようにアンプが Post にある場合、パラレル・パスA & Bがアンプのインプットへ送られます。\* パスAかBのどちらにもエフェクトを動かすことは可能です。その場合、これらはパラレルになり、各パスのアウトプットはミキサーのA & B Level、Panパラメーターによって個々にコントロールされるため、アンプへ届く前にカスタム・ブレンドすることができます。

注意：全てのアンプ＆プリアンプは「モノ」モデルとして動作し、シグナル・フロー内で、それらの前に置かれたエフェクト・モデルのステレオ出力に影響を与えます。詳細に関しては、[3•6ページ](#)の「モデル・タイプとモノ/ステレオ・シグナル・ルーティング」をご覧ください。

6•3

## アンプ、キャビネット、マイク・モデルを選ぶ

**VIEW**ボタンを押してシグナル・フロー・ビューを表示させ、ナビ・ディスクを使用してアンプAかアンプBを選びます。



アンプBを選択したときのシグナル・フロー・ビュー

## アンプ、キャビネット&マイク・モデル

アンプ・モデルを選ぶと、画面下方に4種類のエディット可能なアンプ・オプションが表示されます。マルチファンクション・ノブ1~4を使用してアクセスします。

- ノブ1—アンプ・モデルを選びます。
- ノブ2—キャビネット・モデルを選びます。
- ノブ3—マイク・モデルを選びます。
- ノブ4—選択したプリセットに2種類のアンプ・モデルが含まれている場合、どちらのアンプ（パスAやB内のアンプ）をアンプ・トーン・ノブでコントロールするかをこのノブで設定します。

アンプ・モデル（ノブ1）を変更すると、各アンプやプリアンプに対して、デフォルトのキャビネットとマイク・モデルが自動的に選択されます（[6・5ページの「デフォルトのアンプ・セッティングについて」](#)参照）。ノブ3&4を使用して、好きなキャビネット・モデル、マイク・モデルをどれでも選択することができます。これらの設定はプリセット毎に保存されます。

6・4

ベーシスト向けのヒント：パンチが欲しい場合は、Flip Top Bass Ampモデルをお試しください。このモデルでは、最高のベース・サウンドを出すためにマッチした1x15 Flip Topスピーカー・キャビネットやマイク・モデル一式がロードされます（もちろんFlip Top Bass Ampモデルで他のキャビネットを選択することも、ギター・アンプとしてFlip Topキャビネットを使用することも可能です）。これらのモデルについての詳細は以下のセクションをご覧ください。

## アンプとプリアンプ・モデル

各アンプの「プリアンプ」バージョンも用意されており、アンプのプリアンプ段のトーンだけを得ることができます。POD HD500Xのアウトプットを外部アンプへ送ったり、L6 LINK™接続する場合には推奨されます。\*



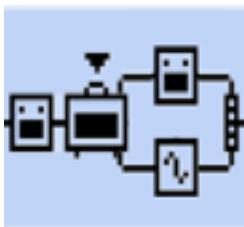
プリアンプ・モデルはアンプB用に選びます

アンプかプリアンプのどちらを選んでも、キャビネットとマイク・モデルの追加アプリケーションは、SETUP: OUTPUT設定によって決まります。[2•8ページの「ページ 4、Setup : Output」](#)をご覧ください。

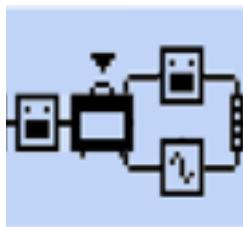
異なるアンプ間では全体のボリュームレベルにばらつきがありますが、これは正常です。当社モデリングしたクラシックなアンプそれぞれのプリアンプ・セクションは、全く異なります。従って、それらが送られるであろうパワー・アンプのタイプに最適なプリアンプのデフォルト値を設定しました。DRIVEとVOLUMEノブで必要なレベルが得られるまで微調整してください!

## アンプ・ブロックの状態

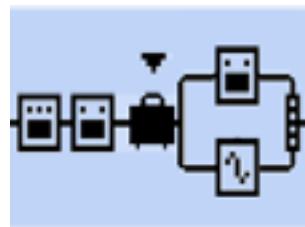
アンプ・ブロックの状態には3種類あります：オン、オフ（バイパス）、無効（ブロックが「Null」の状態と呼ばれることもあります）。



アンプ・ブロック「On」



アンプ・ブロック「Off」



アンプ・ブロック「無効」(Null ブロック)

6•5

## デフォルトのアンプ・セッティングについて

別のアンプやプリアンプ・モデルに変更すると、あらかじめ決められたキャビネット&マイク・モデル、アンプ・トーンを補完するようデザインされたアンプ・トーン・ノブの設定が自動的にロードされます。この章を通して既に記載されているように、キャビネットやマイク・モデルは変更可能です。その場合、変更を保持するためにプリセットは必ず保存してください。

## マイク・モデル

以下は全てのマイク・モデルのリストです。全てのギター・アンプのキャビネットで8種類のマイクが用意されており、1x15 Flip Top Bassキャビネットでは独自の8つのマイク・モデルが提供されています。

マイク・モデルの詳細	
マイク名	以下の製品がベース*
<b>ギター・キャビネット・マイク・モデル</b>	
57 On Xs	Shure® SM57 Dynamic, On Axis
57 Off Xs	Shure® SM57 Dynamic, Off Axis
409 Dyn	Sennheiser® MD 409 Dynamic
421 Dyn	Sennheiser® MD 421 Dynamic
4038 Rbn	Coles 4038 Ribbon
121 Rbn	Royer® 121 Ribbon
67 Cond	Neumann® U67 Condenser
87 Cond	Neumann® U87 Condenser
<b>ベース・キャビネット・マイク・モデル</b>	
57 On Xs	Shure® SM57 Dynamic, On Axis
421 Dyn	Sennheiser® MD 421 Dynamic
12 Dyn	AKG® D12
112 Dyn	AKG® D112
20 Dyn	EV® RE20
7 Dyn	Shure® SM7B
40 Dyn	Heil® PR40
47 Cond	Neumann® U47

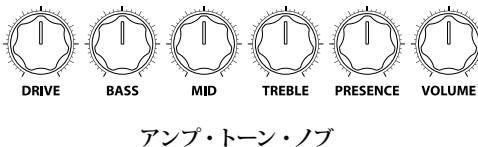
## アンプ・パラメーターをエディットする 選択したアンプ・モデルの On/Off



**ENTER - AMP ON/OFF**ボタンを一回押します。アンプを「Off」に切り替えると、アンプ、キャビネット、マイクの処理をバイパスします。

## アンプ・トーンの調整

アンプ・トーン・ノブを回して調整し、選択したアンプに気に入ったセッティングを選びます。



6•7

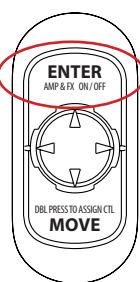
アンプ・トーン・ノブの操作中には**AMP : EDIT**画面が一時的に表示され、現在選択されているアンプ A&アンプBモデル両方のトーン・ノブに設定されている実際の値を（**Amp Knobs Display**のセッティング次第で）示します（[2•2ページの「ページ 1、Setup : Utilities」](#)参照）。AMP : EDIT オプションの詳細は、次のセクションをご覧ください。

## アンプおよびキャビネット・エディット・ディスプレイ

**ENTER**ボタンを2度押しすると、**Amp & Cab Edit**画面が表示されます。記載されているオプションは最大5ページにまで及ぶため、アンプ、キャビネット、マイクのセッティングを細かく微調整することができます\*。これらの画面で行った設定は全てプリセット毎に保存されます。

\*注：選択されているアンプ・モデルが「フル」アンプ・モデルの場合、以下に記載されているように、パワー・アンプ関連の機能をディープ・エディット（細部までエディット）するページ2と3、そしてキャビネットの機能をディープ・エディットするページ4と5が用意されています。選択したアンプ・モデルがプリアンプの場合は、以下に記載されているアンプ/キャビネット・エディット・ページ1、4、5と同じ機能を持つ3ページしか表示されません。ナビディスクの左右の矢印で使用可能なページにアクセスしてください。

## アンプ・エディットページ |



Amp : Edit 画面のページ 1—両方のアンプが On の場合

- 両方のアンプ・モデルがOnの場合：アンプ・トーン・ノブで調整するに従い、上記のように画面のそれぞれのコントロールがアップデートされます。各ノブの周りに見える黒い「ドット」は、それが最後に保存された値を示していることに注意してください。この画面の表示中にマルチファンクション・ノブ1～4を使用すれば、アンプ、キャビネット&マイク・モデル、アンプA/Bの選択にアクセスすることも可能です。

6•8



Amp : Edit 画面のページ 1—アンプAがバイパス、アンプBがOffの場合

アンプ・モデルがOffの場合：上記のように、アンプA用にVOLノブだけが表示されます。これはアンプ・モデルのバイパス・ボリューム専用の独立したパラメーターです。デバイスの**VOLUME**ノブを使用してこれを調整します。その値は、アンプ・ロックがバイパスされるたびにプリセットとは別に保存されます。

アンプ・ブロックを「Null」に設定した場合、VOLUME ノブでレベルをコントロールすることはできません。

- マルチファンクション・ノブ1～4で画面下のオプションを調節します：
  - ノブ 1:アンプやプリアンプ・モデルを選択します。
  - ノブ 2:キャビネット・モデルを選択します（ページ4のオプションもご覧ください）。
  - ノブ 3:マイク・モデルを選択します（ページ4のオプションもご覧ください）。
  - ノブ 4:アンプ Aまたはアンプ Bのどちらを調整するかを選びます（このオプションは全てのAMP : EDIT画面で利用可能です）。

## アンプ・エディットページ 2

ページ2には、アンプ・モデルのパワーアンプ特性に影響を与える3種類のオプションが用意されています。

6•9



Amp:Edit画面のページ2（プリアンプ・モデルには表示されません）

- ノブ 1:このMASTERパラメーターでパワーアンプのディストーション量を調整します。このパラメーターは相互作用が高く、他全てのパワーアンプ・パラメーターに影響を与えます。MASTERの設定値が低ければ低いほど、他のコントロールへ及ぼす影響は少なくなります。
- ノブ 2:SAGを最小値に設定すると、よりコンパクトなレスポンスを得ることができ、反対に設定値を高くすることでよりダイナミクスとサステインを効かせることができます。
- ノブ 3:どれくらいのヒーターハムとACリップルをトーンと相互に作用させるかをコントロールします。最高値に設定すれば強烈にワイルドなサウンドが得られます。

## アンプ・エディットページ 3

ページ3には、アンプ・モデルの特性に影響を与える、2種類のオプションが追加されています。



Amp : Edit 画面のページ3 (プリアンプ・モデルには表示されません)

- ノブ1:パワーチューブのバイアスを変更します。最小値に設定すると「冷めた」Class ABバイアスが得られます。最大値の場合、アンプはClass Aで動作します。
- ノブ2:設定値を高くした際にパワーアンプ・チューブのボイスがどのように反応するかは、BIAS EXCURSIONで決まります。よりコンパクトなサウンドでレスポンスを得たいときは、設定値を低めにします。チューブ・コンプレッションをより効かせたいときは、設定値を高くします。このパラメーターは特に**DRIVE & MASTER**セッティングに反応します。
- ノブ3:このページに記載する機能はありません。

## アンプ・エディットページ4

マイクとスピーカー・キャビネットのオプションが記載されています。



AMP : EDIT LCD 画面のページ2

注意：キャビネット・モデルに「No Cab」を選択すると、スピーカー、マイクやアーリー・リフレクションの処理が適用されなくなるため、これらのマイクとアーリー・リフレクションの設定は反映されません。

- ノブ 1:「アーリーリフレクション」の量を設定します。設定値を高めると、反射音のより強いルームサウンドをアンプ・トーンに加えます。
- ノブ 2:低周波数アッテネーター。サウンドの低域に締まりを出します。
- ノブ 3:マイク・タイプを選びます ([6・6ページ](#)のマイク・モデル表参照)。

注：1x15 Flip Topキャビネット・モデルを選択している場合、ベースに合った独自のマイク・モデルのリストが表示されます。

## アンプ・エディットページ5

スピーカー・キャビネットのパラメーターをさらに“ディープ・エディット”することで、フィールや周波数特性を好みに応じて調整できます。

6・11



- ノブ 1:モデル・スピーカーのレゾナンス（共鳴）の全体レベルを調整します。数値を上げると、より生き生きとしてブライトな特性が得られます。このレゾナンス・レベルを上げると全体の音量も上がります。
- ノブ 2:モデル・スピーカーのレゾナンスの低域レベルを調整します。この数値を上げると低域が増え、キャビネットのサウンドに「パンチ」を加えます。
- ノブ 3:モデル・スピーカーのレゾナンスのディケイ・タイムを調整します。低い数値では「タイト」なスピーカー・コーンの感じを、高い数値では「ルーズ」なスピーカーの感じを提供します。

注：上記の3つのキャビネットのパラメーターは相互に影響します。レゾナンス・レベルを下げる  
とパンチやディケイの効果も下がります。パンチやディケイはモデル・スピーカーのレゾナンスに  
適用されているので、レゾナンス・レベルが最小値に設定されるとパンチやディケイの効果は  
聞こえなくなります。

レゾナンス・レベル、パンチ、ディケイのコントロールは、PODがスタジオ/ダイレクト・アウトプット・モードの時にのみ聞こえます。

操作が終了したらHOMEボタンを押すか、ENTERボタンを2度押してAMP: EDIT画面を終了させま  
す。カスタマイズしたAmp Modelセッティングを維持したい場合は、プリセットを必ず保存してください。

## アンプ/プリセット・モデル

全てのHDアンプ/プリアンプ・モデルのベースとなったクラシックなアンプを、以下の表に記載します。

\* 詳細は、<http://line6.jp/support/manuals/> から入手可能な POD HD モデル・ギャラリーをご覧ください。

6•12

POD HD アンプ/プリアンプ・モデル	
アンプ/プリアンプ・モデル	以下の製品がベース*
Amp Disabled	選択すると、アンプモデルはロードされません。
Blackface Double Normal	'65 「Blackface」 Fender® Twin Reverb®, ノーマル・インプット・チャンネル
Blackface Double Vibrato	'65 「Blackface」 Fender® Twin Reverb®, ビブラート・インプット・チャンネル
Hiway 100	Hiwatt® Custom 100
Super O	'60年代の Supro® S6616
Gibtone 185	Gibson® EH-185
Tweed B-Man Normal	'59 Fender® Tweed Bassman®, ノーマル・インプット・チャンネル
Tweed B-Man Bright	'59 Fender® Tweed Bassman®, ブライト・インプット・チャンネル
Blackface 'Lux Normal	Fender® 「Blackface」 Deluxe Reverb®, ノーマル・インプット・チャンネル
Blackface 'Lux Vibrato	Fender® 「Blackface」 Deluxe Reverb®, ビブラート・インプット・チャンネル
Divide 9/15	Divided By 13 9/15
PhD Motorway	Dr. Z® Route 66
Class A-15	'61 「Fawn」 Vox® AC-15

\* 全ての製品名は、その商標の該当所有者の権利に基づくものであります。Line 6社との関連、または提携関係は一切ありません。これらの製品名および記述は、Line 6のサウンド・モデル開発中に研究対象となった特定の製品を識別するためのみ使用しています。Fender®, Twin Reverb®, Bassman®およびDeluxe Reverb®は、Fender Musical Instruments Corporationの登録商標です。Vox®は、Vox R&D Limitedの登録商標です。Marshall®は、Marshall Amplification Plc.の登録商標です。Dr. Z®は、Dr. Z Amps, Inc.の登録商標です。Mesa/Boogie®, Dual Rectifier®は、Mesa/Boogie, Ltdの登録商標です。Engl®は、Beate Ausflug, Edmund Englの登録商標です。Hiwatt®は、Fernandes Company, Ltd.の登録商標です。Fane®は、Fane International.の登録商標です。Gibson®は、Gibson Guitar Corp.の登録商標です。Supro®は、Zinky Electronicsの登録商標です。Ampeg®, Portaflex®は、Loud Technologies, Inc.の登録商標です。

## POD HD アンプ/プリアンプ・モデル

アンプ/プリアンプ・モデル	以下の製品がベース*
Class A-30 TB	Vox® AC-30 "Top Boost"
Brit J-45 Normal	'65 Marshall® JTM-45 MkII、ノーマル・インプット・チャンネル
Brit J-45 Bright	'65 Marshall® JTM-45 MkII、ブライト・インプット・チャンネル
Plexi Lead 100 Normal	'59 Marshall® "Plexi" Super Lead 100、ノーマル・インプット・チャンネル
Plexi Lead 100 Bright	'59 Marshall® "Plexi" Super Lead 100, Bright input channel
Brit P-75 Normal	Park 75、ノーマル・インプット・チャンネル
Brit P-75 Bright	Park 75、ブライト・インプット・チャンネル
Brit J-800	Marshall® JCM-800
Bomber Uber	2002 Bogner ÜberSchall
Treadplate	Mesa/Boogie® Dual Rectifier®
Angel F-Ball	Engl® Fireball 100
Line 6 Elektrik	思わずニタつくLine 6オリジナル
Solo 100 クリーン	'93 Soldano® SLO 100、ノーマル・チャンネル、「クリーン」モード
Solo 100 クランチ	'93 Soldano® SLO 100、ノーマル・チャンネル、「クランチ」モード
Solo 100 OD	'93 Soldano® SLO 100、オーバードライブ・チャンネル
Line 6 Doom	最高の歪みを得るために改造版JCM800プリアンプに、Hiwatt®のパワーアンプを合体
Line 6 Epic	レベルの大小を問わずに素晴らしいサステインとディストーションを生み出すLine 6独自のモデル
Flip Top	Ampeg® B-15NF Portaflex®ベース・ギター・アンプ

\* 全ての製品名は、その商標の該当所有者の権利に基づくものであり、Line 6社との関連、または提携関係は一切ありません。これらの製品名および記述は、Line 6のサウンド・モデル開発中に研究対象となった特定の製品を識別するためのみ使用しています。Fender®、Twin Reverb®、Bassman®およびDeluxe Reverb®は、Fender Musical Instruments Corporationの登録商標です。Vox®は、Vox R&D Limitedの登録商標です。Marshall®は、Marshall Amplification Plc.の登録商標です。Dr. Z®は、Dr. Z Amps, Inc.の登録商標です。Mesa/Boogie®、Dual Rectifier®は、Mesa/Boogie, Ltdの登録商標です。Engl®は、Beate Ausflug, Edmund Englの登録商標です。Hiwatt®は、Fernandes Company, Ltdの登録商標です。Fane®は、Fane Internationalの登録商標です。Gibson®は、Gibson Guitar Corp.の登録商標です。Supro®は、Zinky Electronicsの登録商標です。Ampeg®、Portaflex®は、Loud Technologies, Inc.の登録商標です。

## アンプ・コントロール・ラベル

一部のアンプ・モデルには、Amp:Edit画面に異なる名称のアンプ・トーン・ノブが表示されます。モデリングしたクラシックなアンプに特別なノブ・コントロールが搭載されている場合は、その動作をエミュレートしました。以下がその内容です。

- Super O:実際のSupro®には1種類のDRIVEと1個のTONEノブしかないので、TONEを**MID**ノブへマップし、BASS、TREBLE、PRESENCEコントロールを作り出しました:



Super O の Amp : Edit画面

- Divide 9/15:Divided by 13アンプは相互作用する2チャンネルを提供します。**DRIVE**ノブで「クリーン」チャンネルのコントロールを行い、**BASS**ノブは「ダーティ」チャンネルのDRIVEノブとして使用します。**MID & TREBLE**ノブはアンプのTONE & CUTノブのように作動します。



Divide 9/15 Amp : Edit画面

- Class A-15 & Class A-30TB:Vox®のデザインに従って、これら2種類のアンプモデルの**MID**ノブに「CUT」のラベルを付けました。ノブを反時計回りに回すと、ハイ・エンド周波数が減少します。



Class A-15 & Class A-30TB Amp : Edit画面

\* 全ての製品名は、その商標の該当所有者の権利に基づくものであり、Line 6社との関連、または提携関係はありません。これらの製品名および記述は、Line 6のサウンド・モデル開発中に研究対象となった特定の製品を識別するためにのみ使用しています。Fender®、Twin Reverb®、Bassman®およびDeluxe Reverb®は、Fender Musical Instruments Corporationの登録商標です。Vox®は、Vox R&D Limitedの登録商標です。Marshall®は、Marshall Amplification Plcの登録商標です。Dr. Z®は、Dr. Z Amps, Inc.の登録商標です。Mesa/Boogie®、Dual Rectifier®は、Mesa/Boogie, Ltdの登録商標です。Engl®は、Beate Ausflug、Edmund Englの登録商標です。Hiwatt®は、Fernandes Company, Ltd.の登録商標です。Fane®は、Fane Internationalの登録商標です。Gibson®は、Gibson Guitar Corp.の登録商標です。Supro®は、Zinky Electronicsの登録商標です。Ampeg®、Portaflex®は、Loud Technologies, Inc.の登録商標です。

## キャビネット・モデル

キャビネット・モデルのベース\*となったクラシックなスピーカー・キャビネットを以下の表に記載します。

POD HD500X キャビネット・モデル	
キャビネットモデル	以下をベース*
No Cab	これを選択した場合、お使いのアンプモデルにスピーカー、マイク、アーリー・リフレクションが適用されません。
212 Blackface Double	Fender®「Blackface」Twin Reverb® コンボ・キャビネット、2x12インチ Jensen® スピーカー
412 Hiway	Hiwatt® キャビネット、4x12インチ Fane® 12287 50W スピーカー
6x9 Super O	Supro® S6616 コンボ・キャビネット、「6x9」スピーカー 1台
112 Field Coil	Gibson® EH-185 コンボ・キャビネット、1x12インチ Field Coil スピーカー
410 Tweed	'59 Fender® Tweed Bassman® コンボ・キャビネット、4x10インチ Jensen® アルニコ・スピーカー
112 BF 'Lux	Fender®「Blackface」Deluxe Reverb® コンボ・キャビネット、12インチ Oxford 12K5-6スピーカー 1台
112 Celest 12-H	Divided By 13 9/15 コンボ・キャビネット、12インチ Celestion® G12H Heritage (70th Anniversary) スピーカー 1台
212 PhD Ported	Dr. Z® Z Best キャビネット、2x12インチ Celestion® スピーカー (G12H Heritage 1台とVintage 30 1台)
112 Blue Bell	'61 「Fawn」Vox® AC-15 コンボ・キャビネット、12インチ・スピーカー 1台
212 Silver Bell	Vox® AC-30 「Treble Boost」、2x12インチ Celestion® Alnico Silver Bell スピーカー
412 Greenback 25	Marshall® キャビネット、4x12インチ Celestion® G12M 「Greenback」スピーカー
412 Blackback 30	Marshall® キャビネット、4x12インチ Celestion® Rola G12H 「Blackback」スピーカー
412 Brit T-75	Marshall® キャビネット、4x12インチ Celestion® G12T75 スピーカー
412 Uber	Bogner Uberschall キャビネット、4x12インチ Celestion® スピーカー (2 x G12T75 と2 x Vintage 30スピーカー)
412 Tread V-30	Mesa/Boogie® キャビネット、4x12インチ Celestion® Vintage 30 スピーカー
412 XXL V-30	Engl® Pro キャビネット、4x12インチ Celestion® Vintage 30 スピーカー
115 Flip Top	Ampeg® Custom Design, CTS 1x15スピーカー

\* 全ての製品名は、その商標の該当所有者の権利に基づくものであります。Line 6社との関連、または提携関係は一切ありません。これらの製品名および記述は、Line 6のサウンド・モデル開発中に研究対象となった特定の製品を識別するためのみ使用しています。Fender®、Deluxe Reverb®、Twin Reverb®および Bassman®は、Fender Musical Instruments Corporation の登録商標です。Hiwatt®は、Fernandes Company、Ltdの登録商標です。Dr. Z®は、Dr. Z Amps、Incの登録商標です。Vox®は、Vox R&D Limitedの登録商標です。Marshall®は、Marshall Amplification Plcの登録商標です。Mesa/Boogie®および Dual Rectifier®は、Mesa/Boogie、Ltdの登録商標です。Engl®は、Beate Ausflug および Edmund Englの登録商標です。Hiwatt®は、Fernandes Company、Ltd.の登録商標です。Fane®は、Fane International の商標です。Gibson®は、Gibson Guitar Corp.の登録商標です。Supro®は、Zinky Electronicsの登録商標です。Celestion®は、Celestion International Ltd.の登録商標です。Jensen®は、Jensen Loudspeakers and Audiovox Corporation の登録商標です。Ampeg®、Portaflex®は、Loud Technologies, Inc.の登録商標です。



# 7 - エフェクト・モデル

POD HD500X®には、人気の高いLine 6 M13ストンプボックス・モデラーに由来するものなど、素晴らしいエフェクト・モデルが多数収められています！この章では、POD HD500Xエフェクト・モデル全てをカテゴリーに分けて記載したリファレンス表と、それらのパラメーターに関する詳細も併せて用意しました。エフェクト・モデル・パラメーターは、全てエディット・モードからアクセスすることができます。エディット・モードの機能についての詳細は、[5•1ページの「5 - エフェクト・エディット・モード」](#)をご覧ください。

ヒント：POD HD500X FXモデルについての詳細は、<http://line6.jp/support/manuals/>から入手可能な、POD HDモデル・ギャラリーとM13アドバンスト・ガイドの文書と併せてご覧ください。

## ダイナミクス・モデル

ダイナミクス・エフェクト・モデルーパラメーター・リファレンス表					
モデル	パラメーター				
Noise Gate	Threshold	Decay	--	--	--
Hard Gate	Open Threshold	Close Threshold	Hold	Decay	--
Tube Comp	Threshold	Level	--	--	--
Red Comp	Sustain	Level	--	--	--
Blue Comp	Sustain	Level	--	--	--
Blue Comp Treb	Sustain	Level	--	--	--
Vetta Comp	Sensitivity	Level	--	--	--
Vetta Juice	Amount	Level	--	--	--
Boost Comp	Drive	Bass	Comp	Treble	Output

7•1

### 共通パラメーター

以下のパラメーターは大部分のダイナミクス・エフェクト・モデルに共通です。

- **Threshold**: コンプレッサー・エフェクトでは、値を下げるとき圧縮率が上がり、Threshold設定による自動メイクアップ・ゲイン段も機能します。
- **Sustain**: コンプレッサーの中にはサステインを含むものがあります。これはThresholdコントロールと良く似ていますが、機能は逆です。設定値を高くすると圧縮効果が高まるため、サステインの効いたソフトでウエットな音が得られます。
- **Level**: 全体のボリュームを調整します。設定値を高くすると、一般的にアウトプットがブーストします。

## ディストーション・モデル

ディストーション・モデル・パラメーター・リファレンス表					
モデル	パラメーター				
Tube Drive	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Screamer	Drive	Bass	Tone	Treble	Output
Overdrive	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Classic Dist	Drive	Bass	Filter	Treble	Output
Heavy Dist	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Color Drive	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Buzz Saw	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Facial Fuzz	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Jumbo Fuzz	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Fuzz Pi	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Jet Fuzz	Drive	Fdbk	Tone	Speed	Output
Line 6 Drive	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Line 6 Distortion	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Sub Octave Fuzz	Drive	Bass	Sub	Treble	Output
Octave Fuzz	Drive	Bass	Mid	Treble	Output

7•2

## 共通パラメーター

以下のパラメーターは大部分のディストーション・エフェクト・モデルに共通です。

- **Drive**: オーバードライブ、ディストーション、ファズの量を調整します。
- **Bass**: ベース EQ レベルを調整します。
- **Mid**: ミッド EQ レベルを調整します。
- **Treble**: トレブル EQ レベルを調整します。
- **Output**: 全体のボリュームレベルを調整します。設定値を高くするとアウトプットがブーストします。

## モジュレーション・モデル

モジュレーション・モデル一覧表					
モデル	パラメーター				
Pattern Tremolo	Speed	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4
Panner	Speed	Depth	Shape	VolSens	Mix
Bias Tremolo	Speed	Level	Shape	VolSens	Mix
Opto Tremolo	Speed	Level	Shape	VolSens	Mix
Script Phase	Speed	--	--	--	--
Panned Phaser	Speed	Depth	Pan	Pan Spd	Mix
Barberpole Phaser	Speed	--	Fdbk	Mode	Mix
Dual Phaser	Speed	Depth	Fdbk	LFO Shp	Mix
U-Vibe	Speed	Depth	Fdbk	VolSens	Mix
Phaser	Speed	Depth	Fdbk	Stages	Mix
Pitch Vibrato	Speed	Depth	Rise	VolSens	Mix
Dimension	Sw1	Sw2	Sw3	Sw4	Mix
Analog Chorus	Speed	Depth	Ch Vib	Tone	Mix
Tri Chorus	Speed	Depth	Depth2	Depth3	Mix
Analog Flanger	Speed	Depth	Fdbk	Manual	Mix
Jet Flanger	Speed	Depth	Fdbk	Manual	Mix
AC Flanger	Speed	Width	Regen	Manual	--
80A Flanger	Speed	Range	Enhance	Manual	Even Odd
Frequency Shifter	Freq	Mode	--	--	Mix
Ring Modulator	Speed	Depth	Shape	AM/FM	Mix
Rotary Drum	Speed	Depth	Tone	Drive	Mix
Rotary Drm/Hrn	Speed	Depth	Horn Dep	Drive	Mix

### 共通パラメーター

以下のパラメーターは大部分のモジュレーション・エフェクト・モデルに共通です。

- **Speed:** エフェクトのモジュレーション／オシレーション／トレモロ速度を調整します。設定値を高くすると速度が増します。速度はHzや音価で設定できます。
  - Hz値を選ぶと、モジュレーション速度がサイクル／秒で表示されます。
  - 音価(Note Division)を選ぶと、現在のタップ・テンポをベースにしたタイムになります ([1•4 ページの「タップ・テンポ」](#) 参照)。
- **Depth:** モジュレーションの強さを調整します。設定値を高くすると、エフェクトによっては極端なピッチベンドや、震えるような音が得られます。
- **Fdbk (Feedback):** エフェクトに送り戻されるディレイの信号の量設定値を高くすると、よりドラマチックな雰囲気になります。
- **Mix:** 「Dry」と「Wet」信号のバランスを設定します。0%では信号にエフェクトを全く加えませんが、100%ではエフェクトがかかった信号だけが聞こえます。コーラス、フランジャー、フェーズ・エフェクトには、ミックスを0から50%に設定するのがベストです。ヴィブラート、トレモロ、ロータリー・エフェクトには、ミックスを90～100%で試してください。自由に実験してみましょう！

7•4

「Script Phase」、「Pattern Tremolo」、「AC Flanger」、「80a Flanger」にはMixパラメーターはありません。これらのドライ/ウェット・バランスは、インスピレーションを与えたクラシックなペダルと同じように「固定」です！

## フィルター・モデル

フィルター・モデルレーパラメーター・リファレンス表					
モデル	パラメーター				
Voice Box	Speed	Start	End	Auto	Mix
V-Tron	Start	End	Speed	Mode	Mix
Q Filter	Freq	Q	Gain	Type	Mix
Vocoder	Mic	Input	--	Decay	Mix
Seeker	Speed	Freq	Q	Steps	Mix
Obi Wah	Speed	Freq	Q	Type	Mix
Tron Up	Freq	Q	Range	Type	Mix
Tron Down	Freq	Q	Range	Type	Mix
Throbbing	Speed	Freq	Q	Wave	Mix
Slow Filter	Freq	Q	Speed	Mode	Mix
Spin Cycle	Speed	Freq	Q	VolSens	Mix
Comet Trails	Speed	Freq	Q	Gain	Mix
Octisynth	Speed	Freq	Q	Depth	Mix
Synth O Matic	Freq	Q	Wave	Pitch	Mix
Attack Synth	Freq	Wave	Speed	Pitch	Mix
Synth String	Speed	Freq	Attack	Pitch	Mix
Growler	Speed	Freq	Q	Pitch	Mix

### 共通パラメーター

以下のパラメーターは大部分のフィルター・エフェクト・モデルに共通です。

- Frequency: エフェクトで使用する中心周波数を選びます。
- Q: 使用中のフィルターの周波数幅を調節します。
- Speed: モデルのモジュレーションやオシレーターの割合を調節します。Hz値か音価に調節可能です:
  - Hz値を選ぶと、特定の変調速度がサイクル／秒で提供されます。
  - 音価を選ぶと、現在のTap Tempoをベースにしたタイミングになります ([1•4ページの「タップ・テンポ」](#)参照)。

## エフェクト・モデル

- **Mix:**「Dry」と「Wet」信号のバランスを設定します。0%では信号にエフェクトを全く加えませんが、100%ではエフェクトがかかった信号だけが聞こえます。フィルター・エフェクトでは、完全に並外れた効果要素を得るために100%のセッティングもを試してみてください。

## ピッチ・モデル

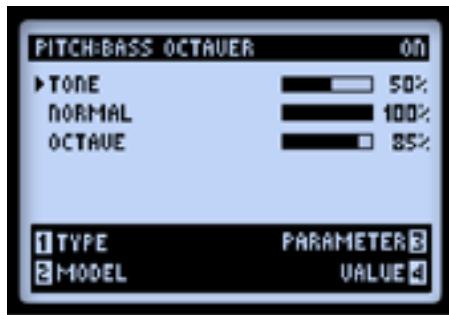
ピッチ・モデルレーパラメーター・リファレンス表					
モデル	パラメーター				
Bass Octaver	Tone	Normal	Octave	--	--
Pitch Glide	Pitch	--	--	--	Mix
Smart Harmony	Key	Shift	Scale	--	Mix

## ピッチ・エフェクト・モデル・パラメーター

これらのエフェクトは他よりも多少複雑なため、各ピッチ・エフェクト・モデルのエディット・モード画面とパラメーターの詳細を用意しました。

### Bass Octaver

7-6



- **Tone:**エフェクト全体のトーン
- **Normal:**ドライ信号のボリュームをコントロールします。
- **Octave:**処理されたオクターブ信号のボリュームをコントロールします。

## Pitch Glide



このエフェクトは、ワイルドなピッチ・ベンディング効果を生み出すために、POD HD500XのペダルをPitchパラメーターに割り当てて使用するのがベストです！

- Pitch: 手動でピッチを選ぶことができます。一番良い方法は、POD HD500Xのペダルを使用してヒールヒトウ値を設定することです！\*
- Mix: ウェット&ドライ信号のバランスをコントロールします。

注意: ペダルへ割り当てるときは、MOVEボタンを2回タップし、コントロールされるパラメーターとして「Pitch」を選びます（3・7ページの「エクスプレッション・ペダルのアサイン」参照）。MIN VALUEを0%に、そしてMAXを100%に設定し、ペダルでフル・ピッチ・レンジをスイープするようにします。MIXを100%に設定するとピッチ信号だけを聞くことができます。

7-7

## Smart Harmony



## エフェクト・モデル

スケールとキー、シフトの値を設定すれば、DSPアルゴリズムから、ギターリフに合わせたパーカクションなハーモニーが生まれます。設定可能なパラメーターは以下の通りです：

- **Key:** 演奏するキーを選びます。
- **Shift:** ハーモニーノートのためのインターバル値を決めます。
- **Scale:** 使用したいスケールを選びます（以下の手順と表を参照）。
- **Mix:** バランスやドライ信号 + ハーモニーノートを設定します。

Smart Harmonyエフェクトは、自動的にギターのシングル・ノート・ピッチを検知して、ユーザーが選択したキーとスケールに合うようにシフトします。キーの選択ができます。他の音階モードを使いたい場合は、以下の表を参考にしてください。

- キーは左側から、モードは上から選びます。
- 2カ所がつながる所の枠が、そのモードに選ぶキーです。例えば、C-Lydianには、スケールはG Majorです。

7-8

キー	モード							
	イオニア	ドリア	フリジア	リディア	ミクソリディア	エオリア	ロクリア	
A	A Maj	G Maj	F Maj	E Maj	D Maj	C Maj	Bb Maj	
B	B Maj	A Maj	G Maj	Gb Maj	E Maj	D Maj	C Maj	
C	C Maj	Bb Maj	Ab Maj	G Maj	F Maj	Eb Maj	Db Maj	
D	D Maj	C Maj	Bb Maj	A Maj	G Maj	F Maj	Eb Maj	
E	E Maj	D Maj	C Maj	B Maj	A Maj	G Maj	F Maj	
F	F Maj	Eb Maj	Db Maj	C Maj	Bb Maj	Ab Maj	Gb Maj	
G	G Maj	F Maj	Eb Maj	D Maj	C Maj	Bb Maj	Ab Maj	

Smart Harmony モデルースケール・リファレンス表

## プリアンプ+EQ モデル

プリアンプ+EQ モデル - パラメーター・リファレンス表					
モデル	パラメーター				
Graphic EQ	80Hz	220Hz	480Hz	1.1kHz	2.2kHz
Parametric EQ	Lows	Highs	Freq	Q	Gain
Studio EQ	Low Freq	Low Gain	Hi Freq	Hi Gain	Gain
4 Band Shift EQ	Low	Low Mid	Hi Mid	Hi	Shift
Mid Focus EQ	Hi Pass Freq	Hi Pass Q	Low Pass Freq	Low Pass Q	Gain
Vintage Pre	Gain	Output	Phase	Hi Pass Filter	Lo Pass Filter

### 共通パラメーター

以下のパラメーターは EQ モデルに共通です。

- Frequency (「Low」、「Mid」、「High」も同様) : 特定の EQ バンドの中心周波数や、範囲を選びます。  
(グラフィック EQ モデルには、それぞれゲインが調整可能な「固定」バンドが含まれています。)
- Q: 周波数バンドフィルターの周波数幅や、シェイプを調節します。
- Gain: 特定のバンドの出力レベルを調節します。(マルチファンクション・ノブ #4 でアクセスした、Gain パラメーターが全体の出力レベルを調節します。)

7-9

### ヴィンテージ・プリアンプ



これは Requisite® Y7 ヴィンテージ・チューブ・マイク・プリアンプに基づいた\* ヴィンテージのモノ・チューブ・マイク・プリアンプのモデルで、マイク・ソース・インプットや Variax アコースティック・ギターで使用するのに最高なだけではなく、ベースやギター・アンプと共に使用することで、シグナル・パスのどの位置に入れても心地良いチューブの暖かさを得ることができます。

## エフェクト・モデル

- **Gain**: インプット・ゲインの数値を入れます。レベルが高いとチューブ・ディストーションが加わります。
- **Output**: 最終アウトプット・レベルを決めます。大幅なシグナル・ブーストが可能です。
- **Phase**: 通常は0を、逆相にするには180を選択してください(2本のマイクをミックスする際、フェーズ・アウトすることで打ち消しあっているようなサウンドを直すには、片方のマイクの位相を反転する必要性がある場合もあります)。
- **HPF**: 低域を減らすハイ・パス・フィルター。Hzの数値を上げて低域の減少が始まる周波数を決めてください。
- **LPF**: 高域を減らすロー・パス・フィルター。KHzの数値を下げて高域の減少が始まる周波数を決めてください。

## ディレイ・モデル

ディレイ・モデルーパラメーター・リファレンス表

モデル	パラメーター				
Ping Pong	Time	Fdbk	Offset	Spread	Mix
Dynamic Dly	L Time	L Fdbk	R Time	R Fdbk	Mix
Stereo Delay	Time	Fdbk	Thresh	Ducking	Mix
Digital Delay	Time	Fdbk	Bass	Treble	Mix
Dig Dly W/Mod	Time	Fdbk	ModSpd	Depth	Mix
Reverse	Time	Fdbk	ModSpd	Depth	Mix
Lo Res Delay	Time	Fdbk	Tone	Res	Mix
Tube Echo	Time	Fdbk	Wow/Flt	Drive	Mix
Tube Echo Dry	Time	Fdbk	Wow/Flt	Drive	Mix
Tape Echo	Time	Fdbk	Bass	Treble	Mix
Tape Echo Dry	Time	Fdbk	Bass	Treble	Mix
Sweep Echo	Time	Fdbk	Swp Spd	Swp Dep	Mix
Sweep Echo Dry	Time	Fdbk	Swp Spd	Swp Dep	Mix
Echo Platter	Time	Fdbk	Wow/Flt	Drive	Mix
Echo Platter Dry	Time	Fdbk	Wow/Flt	Drive	Mix
Analog W/Mod	Time	Fdbk	ModSpd	Depth	Mix
Analog Echo	Time	Fdbk	Bass	Treble	Mix
Auto-Volume Echo	Time	Fdbk	ModDep	Swell	Mix
Multi-Head	Time	Fdbk	Heads 1-2	Heads 3-4	Mix

## 共通パラメーター

以下のパラメーターは大部分のディレイ・エフェクト・モデルに共通です。

- **Time**: ディレイ/リピート・タイムを調節します。設定値が高いと、ディレイはより長くなります。  
時間はms値やノート・ディビジョンで調整可能です：
  - ms値を選ぶと、特定の時間がミリ秒で表示できます。
  - ノート・ディビジョン値を選ぶと、現在のTap Tempoをベースにした時間になります（[1・4ページの「タップ・テンポ」](#)参照）。
- **Fdbk (Feedback)** : ディレイを繰り返す回数を設定します。
- **Depth** : ディレイの中にはモジュレーションを含むものがあります。通常はリピートに適用するピッチモジュレーションの強さを調節するためのデプス・パラメーターが含まれています。
- **ModSpd** : ピッチモジュレーションの速度をコントロールします。
- **Mix** : 「ドライ」と「ウェット」信号のバランスを設定します。0%では信号にエフェクトを全く加えませんが、100%ではディレイがかかった信号だけが聞こえます。

## リバーブ・モデル

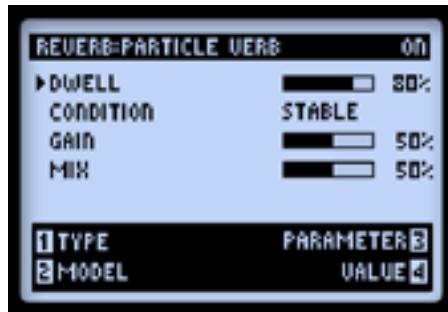
リバーブ・モデル・パラメーター・リファレンス表				
モデル	パラメーター			
Plate	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Room	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Chamber	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Hall	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Echo	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Tile	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Cave	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Ducking	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Octo	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Spring	Decay	PreDelay	Tone	Mix
'63 Spring	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Particle Verb	Dwell	Condition	Gain	Mix

## 共通パラメーター

以下のパラメーターは、Particle Verbモデルを除けば全てのリバーブ・モデルに共通です。このモデルについては別途説明します。

- Decay:リバーブ効果の持続時間を設定します。
- Predelay:リバーブ効果が聞こえる前の時間を構成します。
- Tone:ウェット・リバーブ信号の全体のトーンを調節します。設定値を高くすると、より明るく、さらに残響効果が増します。
- Mix:ドライ & ウェット信号のバランスを0%（ドライ信号のみ）から100%（ウェット・リバーブ信号のみ）の間で設定します。

## Particle Verb



STABLEモードにより、コードを濃密にモジュレーションされたパッドへ変える、新しい種類のリバーブ・エフェクトです。CRITICALモードも似ていますが、ピッチがわずかに上昇します。HAZARDモードでは、全ての音列が除去されます。このモデルのパラメーターは、ほかのリバーブとは異なっています：

- Dwell:基本的に、リバーブ・テイルの減衰までの時間を調節するディケイ・パラメーターです。
- Condition:「STABLE」、「CRITICAL」、「HAZARD」から選びます。今までとは違うリバーブを体験してみましょう！
- Gain:エフェクトの出力レベル全体を設定します。

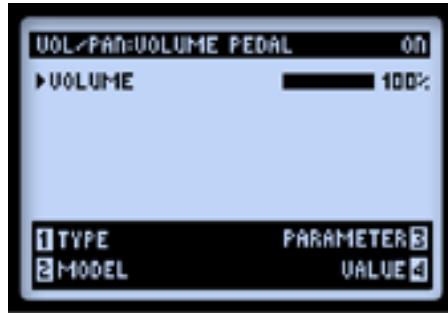
## ボリューム・パン/ワウ・モデル

**Volume/Pan**と**Wah**のモデル・セットが、POD HD500Xで活用されるのを待ち望んでいます。以下にエフェクト・パラメーターとTIPSを紹介しましょう。

VolumeやWahモデルをトーンに加えると、自動的にPOD HD500Xエクスプレッション・ペダルでコントロールされるように割り当てられます！詳細に関しては、[3・7ページの「エクスプレッション・ペダルのアサイン」](#)をご覧ください。

Volume/Pan モデル一覧	
モデル	パラメーター
Volume	Volume Level
Pan	Pan L-R Balance

### Volume



7・13

**Volume**：信号レベルを調整します。100%はユニティ・ゲインです。このパラメーターは、いつでもマルチファンクション・ノブを通じてアクセスすることができます。エクスプレッション・ペダルをボリュームのコントロールに割り当てるとき、ペダルで調節するのと同様に、このVolumeパラメーターにも視覚的に反映されます。

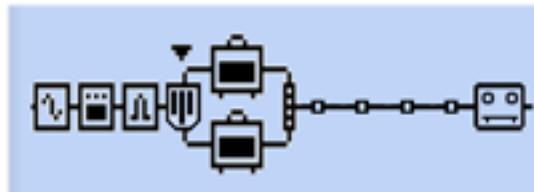
### Pan



- **Pan:** 左右のステレオ・チャンネルに送られる信号バランスを調節します。0%は左にフルに送り、50%は左右に均等に送り、100%は右にフルに送ります。

パンを使用しているとき聞き取れるエフェクトは、シグナル・チェーンの中の位置と、どのエフェクト・タイプがそれに続くかによって大きく異なります。以下がその例です：

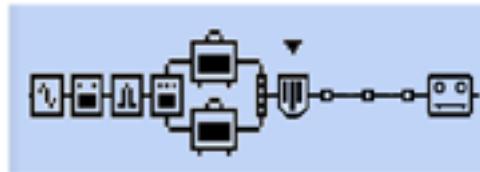
#### パス A & B が分かれる前



パス A & B が分かれる前に設置したパン

ここに置くと、ギター信号は左へパンしてパス A へ、右へパンしてパス B へ送られます。2種類のアンプ・モデルのサウンドを「ブレンド」してみるのもクールかもしれません。

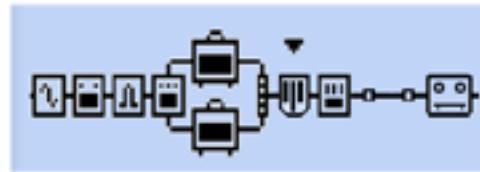
## バスA & Bミキサーの後



バスA & Bミキサーの後

この位置では、パンに送られるステレオ・レフト&ライトの信号はミキサー Pan のセッティングで決定されます。そこでパン・エフェクトがこれらの信号を左右のメイン出力へパンします。このポスト・ミキサー位置は、POD HD500X の左右のアウトプットを両方利用する場合のみにメリットが得られます。

## Panの後にモノ・アウトプット・エフェクト・モデルを置く



Panの後に置いたモノ・エフェクト・モデル (EQ)

7•15

[3•6ページの「モデル・タイプとモノ/ステレオ・シグナル・ルーティング](#)」で説明したように、エフェクト・モデルを Pan の後に置くと、Pan モデルの出力は「モノ化」されます。これは全てのステレオ・エフェクト・モデルに当てはまります。従って、一般的に Pan モデルと同じ信号経路の中に後からモノラル・エフェクト・モデルを置くのは避けた方が良いでしょう。

## Wah モデル

ワウ・モデル - パラメーター・リファレンス表		
モデル	パラメーター	
Fassel	Position	Mix
Conductor	Position	Mix
Throaty	Position	Mix
Colorful	Position	Mix
Vetta Wah	Position	Mix
Chrome	Position	Mix
Chrome Custom	Position	Mix
Weeper	Position	Mix

## 共通パラメーター

以下の通り、各ワウには 2 種類のパラメーターがあります:

- **Position:** これでワウの「スイープ」をコントロールします。どのワウ・モデルもこのパラメーターを使用してペダルに割り当てるのがベストです。マルチファンクション・ノブでこのパラメーターへアクセスして、ペダルを途中で留めたトーンに設定することもできます。
- **Mix:** 「ドライ」と「ウェット」信号のバランスを設定します。0% では信号にワウ・エフェクトを全く加えませんが、100% ではワウがかかった信号だけが聞こえます。さらに巧妙な効果を得たい場合は、ミックスを 100% 以下に下げてみてください!

## 8 - ルーパー・モード

POD® HD500Xのルーパーには、最大48秒のモノ録音時間（1/2 Speedモード使用時）か24秒の録音時間（Normalモード使用時）が可能であるばかりではなく、取り消し、オーバーダブ録音、ハーフスピードでのループ再生、リバース等さらに多くの機能が揃っています！

### ルーパー・フットスイッチ・コントロール&パフォーマンス・ビュー

Looperモードに入ると、POD HD500Xフットスイッチは金色の機能ラベルに従ってルーパーをコントロールするため、ハンズフリーで操作することができます。



ルーパー・フットスイッチ・コントロール

8•1

加えて、LCDパフォーマンス・ビューがいくつかのルーパー機能の動作を表示します。これらは、「それぞれのフットスイッチを押せばこうなる」表示として考えることができます。ルーパーの使用中に **VIEW**ボタンを押すと、この画面が表示されます。（Looper FS Displayオプション、[2•2ページの「ページ1、Setup : Utilities」](#)も参照してください。）



パフォーマンス・ビュー、ルーパー機能

ルーパー・モードが起動中の各フットスイッチの機能とパフォーマンス・ビューの詳細は以下の通りです。



**LOOPER** ルーパー・モード On/Off を切り替えます。このスイッチの LED が点灯すると、POD HD500X ルーパー・モードが起動します。ルーパーの起動中は、上記の通りパフォーマンス・ビュー画面に Looper 機能が表示されます。



**UNDO - FS1** スイッチを使用して、最後に録音したオーバーダブを「取り消し」します。Dub モード、ループ・プレイバック・モードの使用中や停止中にこのフットスイッチを押すと、最後に録音したオーバーダブのみが消去されます。この機能で最初に録音したループが消去されることはありません。

**PLAY ONCE - FS2** スイッチを押すと、録音したループ（録音したオーバーダブがある場合は、それも含めて）を 1 サイクル再生します。事前に録音したフレーズを要求が有り次第、起動させるには便利です！



再生中、Play/Stop アイコンが「STOP」を表示し、押せば直ちに停止できることを示します。

**PRE/POST** - シグナル・フロー内のルーパーの位置を、**FS3** スイッチで決定します。ループの録音中、アンプ&エフェクトの処理をギター信号に加えるか、あるいはループの再生にだけ加えるかを判断します。

- **PRE (FS3 スイッチは消灯)**：ギターは処理されないまま録音されます（例—ループはアンプ & エフェクト処理の「前」に録音されます）。再生すると、ループ・オーディオは、現在選択されているプリセットのアンプ&エフェクト処理を与えるために、入ってくるギターと共にミックスされます。**PRE** に設定したままプリセットやトーン・セッティングを変更すると、変更したものがループ再生に適用されて聞こえるはずです。



ルーパーを **PRE** に設定すると、Pre/Post アイコンが「POST」を表示し、**PRE/POST** フットスイッチを踏めば、ルーパーを **POST** に設定できることを示します。

- **POST (FS3 スイッチ・ライトは点灯)**：ギター信号は処理されて録音（例—ループはアンプ&エフェクト処理の「後」に録音されます）。再生すると、ループ・オーディオは、アンプとエフェクトで処理された後のギター信号と共にミックスされます。これにより、ループが最初から録音されてあったプリセット・トーンを再生する際に、ギター入力だけに適用させるプリセットを新たに選択できるのです！



- ルーパーを**POST**に設定すると、PRE/POSTアイコンが「PRE」を表示し、**PRE/POST**フットスイッチを踏めば、ルーパーを**PRE**に設定できることを示します。

注意：POSTモードでループを録音した後に、PREに切り替えてループを再生すると、現在選択されていたアンプとエフェクトがループ再生（アンプとエフェクトを適用して既に録音したループの位置）に適用される結果となります。この場合、ループ再生時に著しく音量が上がる所以注意してください！

**REC/OVERDUB**—ループを録音するときは、**FS5**スイッチを踏むだけで POD HD500X は即座に録音を開始します。録音中は、フットスイッチが点灯します。パフォーマンス・ビューには以下が表示されます：

- 録音機能により「DUB IN」が画面に表示されます。**REC/OVERDUB**スイッチを押すと、直ちに Overdub モードに入ります。
- ここで**REC/OVERDUB**を押して、演奏をすると、その音は全て最初に行ったループ録音の上に録音され、パフォーマンス・ビューに「DUB OUT」が表示されます。スイッチを再び押すと、オーバーダブ録音が停止します。
- Play/Record 機能により、「STOP」が表示され、**PLAY/STOP**スイッチを押すと、再生 & 録音が停止することを示します。

8•3

録音したループが 1 つあれば、いつでもそのループの上にオーバーダブを重ねることができます。ループを再生してそのループが再生されている間に**REC/OVERDUB**スイッチを踏むだけです。新しいライズ・ギターは、先に録音したループの上に重ねて録音されます。この手順を繰り返すことで何回でも好きなだけオーバーダブを重ねることができます！

ループ再生の停止中に**REC/OVERDUB**を押すと、常に新しいループが録音されるため、最初に録音されたものは廃棄されます。

## ループ・モード

**PLAY/STOP**—録音したループのPlay/Stopを切り替えるときは、**FS6**スイッチ押します。積極的にループを録音する際にこのスイッチを利用すれば、押すだけで録音を停止し、ループの「アウト」ポイントを設定することができます。再生中は、常にFS6スイッチが点灯します。

-  再生中は、Play/Stopアイコンが「STOP」を表示します。

**1/2 SPEED**—FS7スイッチを押すと、1/2 Speed機能のOn/Offが切り替わります。1/2 Speedの起動中は、常に**FS7**スイッチが点灯します。

1/2 Speedオプションは、録音と同様に再生にも使用することができます。それぞれに特定動作があるため、[8・5ページの「1/2 Speed操作」](#)を参照してください。

-  1/2 Speedの起動中は、SPEEDアイコンが「FULL」を表示します。
-  1/2 SpeedをOffになると、SPEEDアイコンが「1/2」を表示します。

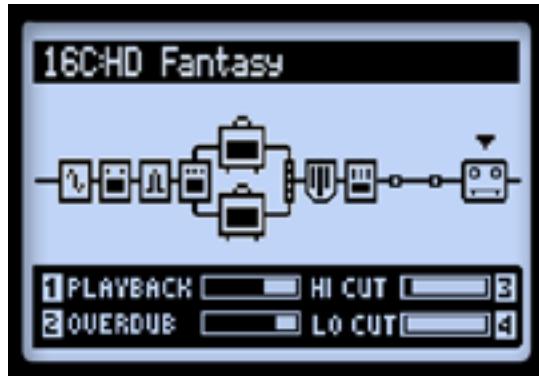
8・4

**REVERSE**—**FS8**スイッチを押すと、REV機能のOn/Offが切り替わります。Onの場合、ループ全てが逆再生されます。Reverseの起動中は、常に**FS8**スイッチが点灯します。

-  Reverseの起動中は、アイコンが「FWD」を表示します。
-  ReverseがOffの場合、アイコンが「REV」を表示します。

## ルーパー・セッティング

**VIEW**ボタンを押してシグナル・フロー・ビュー画面を表示させます。次にルーパーを選択していくつかの追加設定にアクセスします。



シグナル・フロー・ビュー画面、Looper オプション

- 1. Playback—マルチファンクション・ノブ1を使用して、ルーパー再生時のボリュームを調整します。ここでボリュームを少し下げておけば、生のギターの方が多少大きく聞こえて便利でしょう。
- 2. Overdub—オーバーダブ—オーバーダブ・モード内でループの音量を設定するには、マルチ・ファンクション・ノブ2を使用してください。例えば、オーバーダブ・レベルが90%に設定されている場合、新しいオーバーダブ用のループが始まるたびに音量は10%ずつ減り、オーバーダブを繰り返すことでサウンドが静かになります。
- 3. Hi Cut と 4. Lo Cut—マルチファンクション・ノブ3 & 4でこれらのEQオプションを調節し、ループ再生時のトレブルとベースを下げます。生ギターとループ再生の「ミックス」を最適化するためには、これらを下げておく方が便利です。これらのコントロールは、ノブで値を高く設定するほどハイとローの周波数帯域を下げることができます。

## 1/2 Speed操作

ルーパーは録音と再生に1/2 SpeedとFull Speedの両方のオプションを利用します。これらのオプションがループ録音の最大時間に直接影響を与えます。

POD HD500X ルーパー録音時間	
Full Speed	最大 24秒間
1/2 Speed	最大 48秒間

## ルーパー・モード

該当する特定動作は以下の通りです：

- **Full Speed:** 録音前に**Full Speed**に設定した場合、ルーパーの最大録音時間は24秒間です。
  - **Full Speed**の設定で録音したループを再生すると、録音時そのままの音で聞こえます。
  - この設定を**1/2 Speed**にした場合、録音したループの再生は半分の速度で、ピッチが1オクターブ下がった状態で再生されます。
- **1/2 Speed:** 録音前に**1/2 Speed**に設定した場合、ルーパーの最大録音時間は48秒間になります。
  - **1/2 Speed**の設定で録音したループを再生すると、録音時そのままの音で聞こえます。
  - この設定を**Full Speed**にした場合、録音したループの再生は2倍の速度で、ピッチが1オクターブ上がった状態で再生されます。

# 9 - USBオーディオ

この章ではPOD® HD500XのUSBオーディオ能力について説明します。Line 6 USBオーディオ・ドライバーをインストールすれば、Mac®やWindows®のための、質の高いオーディオ・インターフェースとしてPOD HD500Xを使用することができます。

## Line 6 USB オーディオ・ドライバー

コンピュータに POD HD500X を接続する前に、無償提供される Line 6 POD HD500X Edit ソフトウェアをダウンロードし、インストールしておくことをお勧めします。これにより、必要な USB オーディオ・ドライバーと Line 6 Monkey アップデート・ユーティリティがインストールされます（[A•1 ページの「付録 A : Line 6 Monkey™」参照](#)）。

注意：POD HD500X の USB デバイス・ドライバー・バージョン 5.7.0、Mac OS® X 10.4 (Tiger®) のサポートは既に終了しました。Mac® の OS® X 10.4 で POD HD500X の USB 接続を使用する場合は、<http://line6.com/software/> からダウンロード可能な、POD HD500X ドライバー・バージョン 5.1.2 をインストールする必要があります。



POD HD500X Edit ソフトウェアを選択する Line 6 ソフトウェア・ダウンロード・サイト

9•1

インストレーションが終わりましたら、コンピュータの USB 2.0 ポートへ直接デバイスを接続し、POD HD500X の電源を入れます。POD HD500X の接続は、必ずコンピュータの USB 2.0 ポートを使用してください（USB ハブには接続しないでください）。

<http://line6.jp/support/manuals> から入手可能な POD HD500X Edit インストーラー・ガイドと POD HD500X Edit パイロット・ガイドもご覧ください。

### オーディオ・ルーティング

POD HD500Xの USB接続を使用すると、オーディオ・ドライバーはいくつかの作業を管理できるようになります。ドライバーは、処理されたギター信号をUSB Record Sendからコンピュータへ送り、コンピュータから再生オーディオを受け取ります。また、低レイテンシ・モニター信号を与えるために、処理されたギター信号がRecord Sendヘルートする前に捉えます。次にそのモニター信号を再生オーディオと共に合わせます。そしてこの合わせた信号をPOD HD500Xアナログ・アウトプットへ送るのです。

L6 LINK™接続が、POD HD500XとDT50™アンプの間で実行されていると、全てのUSBオーディオはミュートされます。



Line 6 USB オーディオ・ドライバーが提供するUSB オーディオ・ルーティング

## POD HD500Xの Record Send

上記で示すように、Record Sendは、POD HDが処理した、24-ビット・デジタル信号を USB接続により運ぶ、仮想の「パイプライン」です。オーディオ・ソフトウェアがレコーディングのために入力信号として利用できるようにするのが目的です。

POD HD500X Record Sendは、オーディオ・ソフトウェアの中で、利用可能なオーディオ入力/録音装置として現れます。このSendをオーディオ・トラックの入力に選ぶだけで、POD HD500X信号を録音することができます。Sendに送られる信号レベルは、POD HD500Xの設定により影響を受けます：ミキサー・ブロックVolume A & B、アンプ・モデルDRIVE& VOLUME、エフェクト・モデルGAINコントロール、ボリューム・ペダルやその他。録音の質を重視するのであれば、ソフトウェアの中のインプット・メーターを目で確かめながら少なくとも半分から上で調節し、「クリッピング」が生じないようにします。

Record Sendに送られるオーディオ信号のタイプは、POD HD500XのSetup: Outputs画面の中にあります、Output Modeの設定によりコントロールされることに注意してください。USB録音を行うほぼ全ての場合、「Studio/Direct」に設定した方が良いでしょう。詳細は[2•8ページの「ページ4、Setup : Output」](#)をご覧ください。

## Line 6 Audio-MIDI装置パネル

Line 6 Audio-MIDI Devicesユーティリティは、様々なオーディオ・ドライバー・セッティングを構成する場所です。Line 6 Audio-MIDI Devicesダイアログの中のオプションは、Mac®とWindows®システム間では多少異なります。以下の説明を参照してセットアップに合わせてください：[9•4ページの「Mac®-Line 6 Audio - MIDI装置」](#)または[9•10ページの「Windows®-Line 6 Audio - MIDIデバイス」](#)

## Mac®-Line 6 Audio – MIDI装置



Mac®の「システム・プリファレンス」の中から Line 6 Audio-MIDI Devices ユーティリティを起動します。このユーティリティからいくつかのオプションにアクセスします。

### Line 6 Audio-MIDI 設定 – Driver オプション (Mac®)



Line 6 Audio-MIDI Settings ウィンドウ – Driver ページ

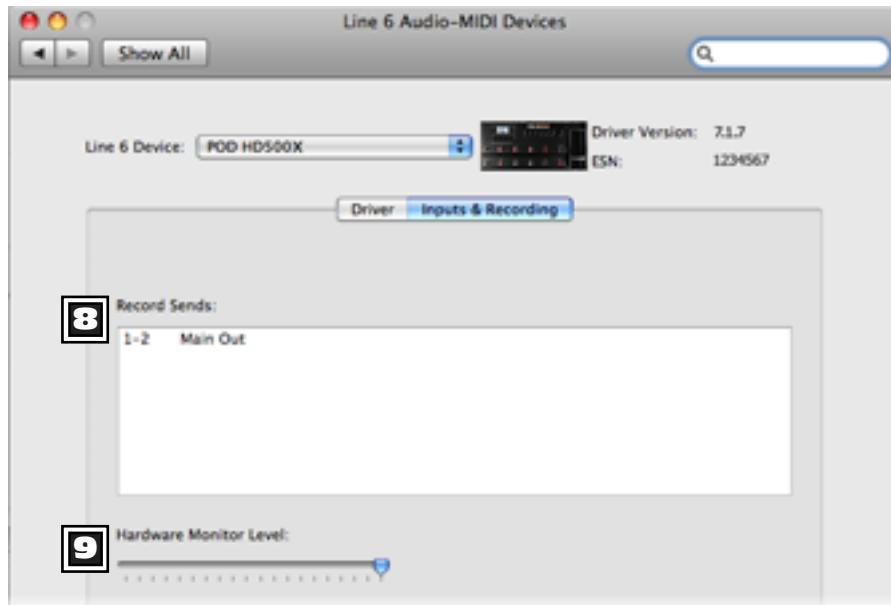
9•4

- 1 Device セレクター:** ここで POD HD500X を選びます。Line 6 対応のオーディオ・デバイスを 2 台以上接続している場合は、このリストの中からそれぞれを選ぶことができます。
- 2 Driver Version:** 現在そのデバイスにインストールされているドライバー・バージョン・ナンバーが表示されます。
- 3 ESN:** 現在接続されているデバイス独自のエレクトロニック・シリアル・ナンバーが表示されます。
- 4 Driver/Inputs & Recording セレクター:** Driver Options ウィンドウの 2 つのページのどちらを表示するかを選びます。[\(9•5 ページの「Inputs & Recording ページ」も参照してください。\)](#)
- 5 Run Audio MIDI Setup:** Mac® Core Audio インターフェース・ドライバー・セッティングは、Mac OS® X オーディオ MIDI セットアップ・ユーティリティの中で構成されます。このボタンを押すとこのダイアログが出現します。[\(9•7 ページの「Mac OS® X オーディオ MIDI セットアップ・ユーティリティ」参照。\)](#)

**6 Sample Rate Converter Active:** デバイスが本来の48kHz以外のサンプル・レートで操作されると、このインジケーターが点灯します。POD HD500Xは内蔵サンプル・レート・コンバーターの利用により、48kHzに加え、44.1kHz、88.2kHz、96kHzのレートもサポートしています。オーディオ・サンプル・レートの設定に関する詳細は、使用するソフトウェアの説明書で確認してください。

**7 USB Audio Streaming Buffer:** 入力モニター信号のオーディオ反応に合わせてバッファサイズを調節します。基本的に、デフォルト・セッティングはほとんどのシステムに対して問題がありません。しかしオーディオがドロップアウトしたり、システム上で大量のCPUデマンドを課している場合は、ライダーの目盛りを1つか2つ右へ上げて負担を軽減させてください。

## Inputs & Recordingページ



9•5

Line 6 Audio-MIDI Settings ウィンドウー Inputs & Recording ページ

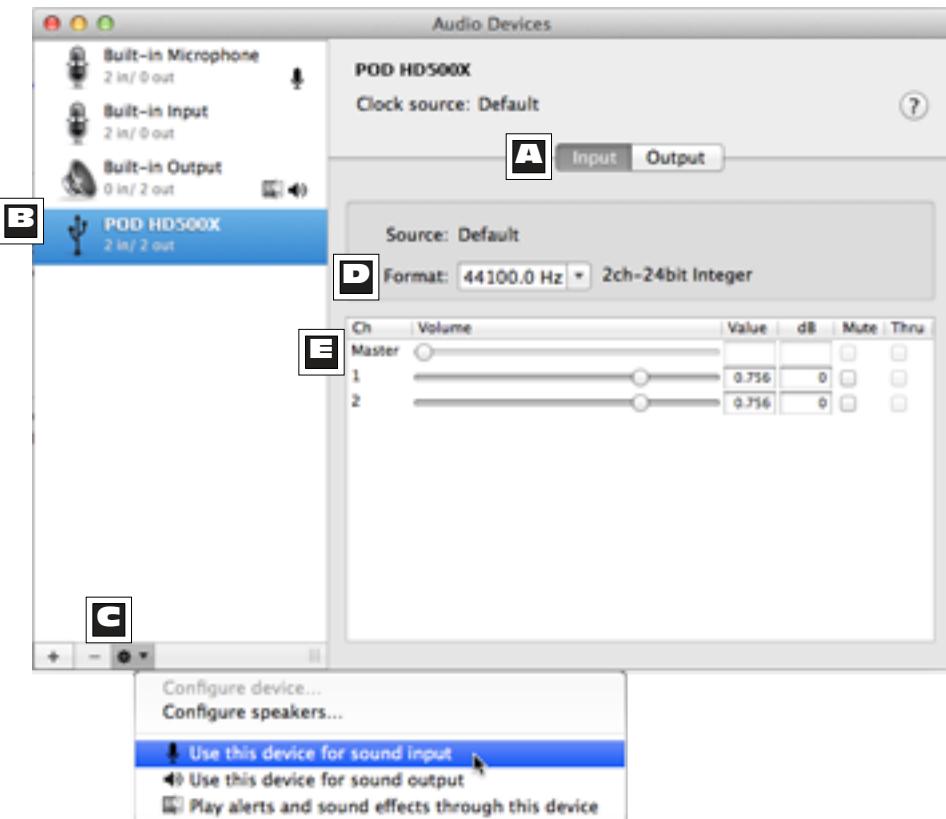
**8 Record Sends リスト:** ここに表示されているのが、オーディオ・ソフトウェアに使用可能な、現在接続されているLine 6デバイスのRecord Sendsです。POD HD500Xには、ステレオ「1-2 Main Out」のRecord Sendが1種類表示されます。

9 ハードウェア・モニター・レベル:処理されたギター・トーンの出力ボリュームをこのスライダーでコントロールし、モニター専用に調節します（信号はデバイスのメイン・アウトプットへ送られます）。Record Sendを経由してコンピュータに送られた信号レベルへの影響はありません。これにより、DAWソフトウェアで録音を行う場合などといった、コンピュータからの再生オーディオに対するギターのモニター・レベルのバランスをとることができます。

DAWアプリケーションへの録音にPOD HD500Xをオーディオ・インターフェースとして使用すると、DAWもまたそれ自身の「ソフトウェア・モニタリング」機能を提示してきます。DAWトラックでプラグ・インと共に処理したギター信号を聞きたい、というような場合には、DAWのソフトウェア・モニタリング機能を使いたくなるかもしれません。DAWソフトウェア・モニタリングを使用する場合は、このスライダーのレベルを最小値に設定して、DAWソフトウェア・モニタリング信号だけが聞こえるようにします。

## Mac OS® XオーディオMIDIセットアップ・ユーティリティ

POD HD500XはMac® Core Audio ドライバー・タイプを利用しているため、実際にどのようなMac®オーディオ/マルチメディア・ソフトウェアに対しても、オーディオ・インターフェースとして互換性を備えています。大部分のCore Audioデバイスと同様に、オーディオ MIDI セットアップ・ダイアログのAudio Devicesページからいくつかのセッティングを見つけることができます。この画面には入力および出力の2つの設定画面があります。どちらの画面にも似たような選択肢がありますが、設定は選択されているデバイスの入力および出力に独立して行われます。



Audio MIDI 設定、入力画面 (Mac OS® X 10.6 以降\*)

\*注: Mac OS® Xバージョン10.5のAudio MIDI設定はレイアウトが若干違いますが、ここで説明されているのと同様のオプションおよび機能が提供されています。

## USBオーディオ

**A** **入力・出力画面セレクター**: それぞれのオプションを表示するにはこれらのボタンを使用してください。

**B** **機器セットリスト**: お使いのPOD HDデバイスをこのリストから選択して、画面にセッティングを表示させてください。

**C** **デフォルト・オーディオ・デバイス・オプション**: 機器セットリストでお使いのPOD HDデバイスを選択した後、この小さな歯車のボタンを押し、POD HDがMac®用アプリケーションのデフォルトの入力(または)出力のサウンド装置になるように設定してください\*。これらのオプションのいずれかを選択した場合、POD HDの右側に表示されているデバイス・リスト内のそれぞれのアイコンに、デフォルトのデバイスとして選択されていることが表示されます。

\*注:多くのDAWのアプリケーション(GarageBand、Logic、Ableton Liveなど)は、こここの設定とは独立してそれぞれの初期設定内でオーディオの入力、出力デバイスを選択することが可能です。

- このサウンド入力装置を使用: Mac®アプリケーションのオーディオ・レコーディングなどにおけるデフォルトの入力装置としてPOD HDを使用したい場合はこのオプションを選択してください。
- このサウンド出力装置を使用: iTunes®の音楽再生など、Mac®アプリケーションにおけるデフォルトの出力装置としてPOD HDを使用したい場合はこのオプションを選択してください。
- この装置を通して警告とサウンドエフェクトを再生: このオプションを選択すると、システムのアラート音などがそのデバイス経由で再生されます。POD HDのギター・オーディオ・プレイバックと同じ大音量でMac®のアラート音を聞きたくない場合はこれを選択しないでください。

9•8

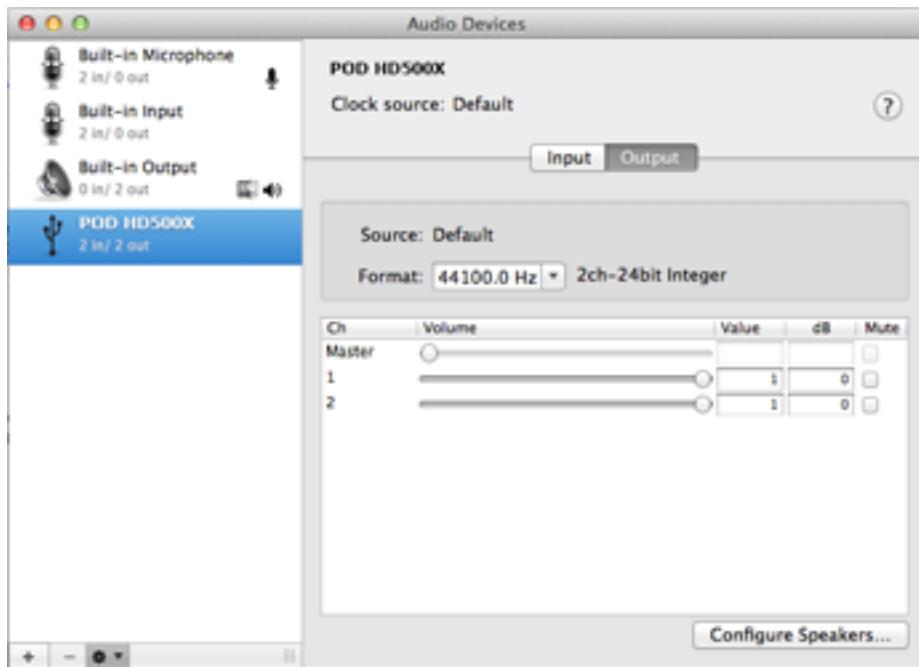
**D** **フォーマット**: これらのオプションは、POD HDのレコーディング(インプット画面を表示している場合)およびプレイバック(アウトプット画面を表示している場合)のサンプル・レート\*およびビット・デプスを表示します。POD HDのビット・デプスは24bitで固定されています。

\*オーディオ・ソフトウェアが作動している場合、この画面のサンプル・レート・セレクターからサンプル・レートを変更しないことが推奨されます。通常、各オーディオ・ソフトウェアには初期設定内でサンプル・レートを変更するオプションが用意されているので、そこでレートを変更してください。



**ボリューム・スライダー:**これらのスライダーは選択されているデバイスのレベルを調整するために使用します。

- オーディオ装置ー入力画面を表示している場合（上記参照）、録音アプリケーションに送られるコード・センド信号をスライダーでコントロールします。これらのスライダーはDAWアプリケーションの録音レベルを微調整するために使用することができます。また、インプット信号を最大+18dBブーストすることができます。
- オーディオ装置ー出力画面を表示している場合（下記参照）、アプリケーションからPOD HDに送られるオーディオ・プレイバック信号のステレオ・レベルをスライダーでコントロールします。これらのスライダーは、USBプレイバック・オーディオに対してギター・インプットの信号を独立して調整することができます。



909

Audio MIDI設定、出力画面 (Mac OS® X 10.6以降)

## Windows®-Line 6 Audio – MIDIデバイス

特に明記しない限り Windows® XP、Windows Vista® や Windows® 7 の以下の設定は同じです。

Windows® コントロール・パネルの中から Line 6 Audio-MIDI Devices を起動します。Windows® システム上で、POD HD500X はオーディオ & マルチメディア・ソフトウェア・アプリケーションとの互換性を最大限に発揮するために、DirectSound と ASIO® レコーディング・ドライバーの両方を提供しています。使用されるオーディオ・ソフトウェアが、ASIO® オーディオ・ドライバーに対応しているのであれば、より高いパフォーマンスを得るためにも、このドライバーを選択することをお勧めします。ASIO® ドライバーのセッティングを促す表示が出ときは、そのダイアログの表示箇所で設定を行います。



Line 6 Audio MIDI Devices – Driver タブ (Windows® XP)

**1** **デバイス・セレクター**—ここで POD HD500X を選びます。Line 6 対応のオーディオ・デバイスを 2 台以上接続している場合は、このリストの中からそれぞれを選ぶことができます。

**2** **Driver Version**—現在そのデバイスにインストールされているドライバー・バージョン・ナンバーが表示されます。

**3 ESN**—現在接続されているデバイス独自のエレクトロニック・シリアル・ナンバーが表示されます。

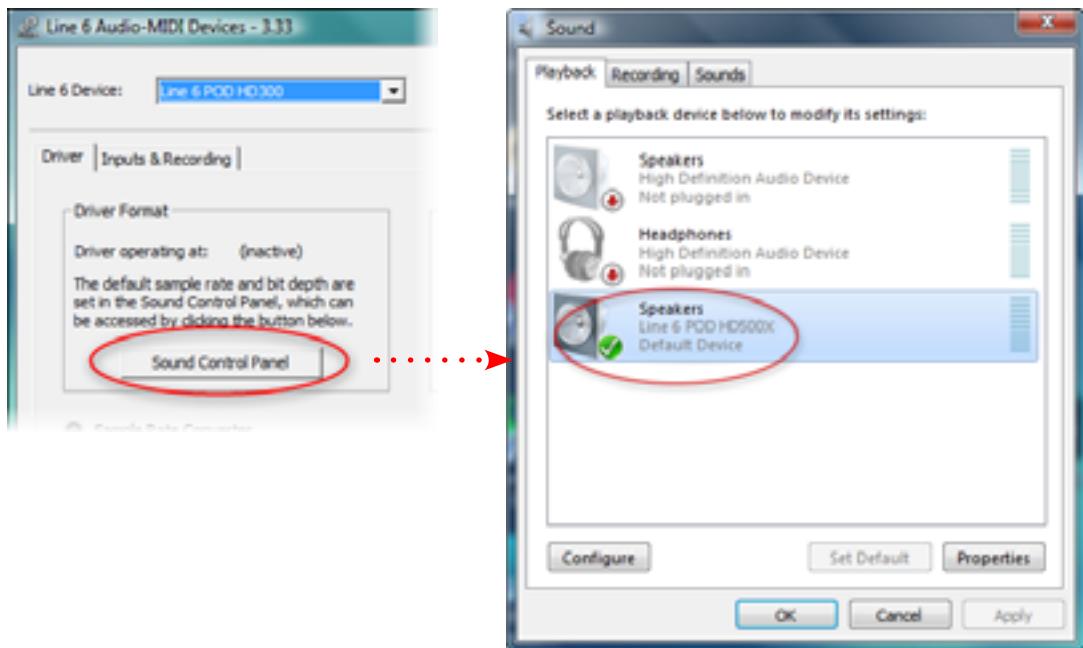
**4 Driver/Inputs & Recording Selector**—Driver Options ウィンドウの2つのタブのどちらを表示するかを選択します。(9•14ページの「[Inputs & Recordingページ](#)」も参照してください。)

**5 Driver Format Operation (Windows® XPのみ)**—これらのオプションは、アプリケーションがWindows® DirectSound® ドライバー経由でPOD HD500X デバイスを使用するときのみ適用可能ですが、ASIO® ドライバーを経て使用する場合、これらのオプションは選択不可能です。

- **Driver operating at:**オーディオ・アプリケーションで使用する際に、ドライバーが実際に使うサンプル・レート & ビット深度を表示します。使用していない場合は「inactive」が表示されます。
- **Default Sample Rate & Bit Depth:** POD HD500Xをオーディオ・インターフェースとして使用する際に、アプリケーション(ASIO®以外)が使用するデフォルトのサンプル・レート & ビット深度を、このオプションで設定します。
- **Lock Driver Format:** チェックを入れると、DirectSound® ドライバーは(Windows® オーディオ・アプリケーションによって要求されたサンプル・レートに従うことに対する反対)常に、2つ前のダイアログで設定したサンプル・レートとビット深度で動作します。

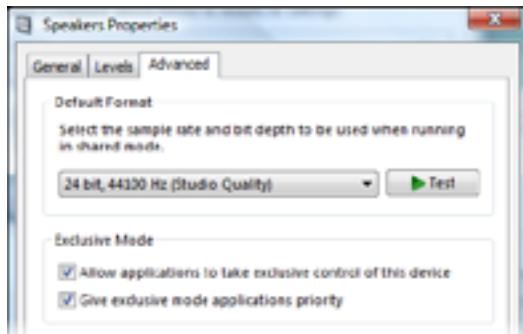
## 5 ドライバー・オペレーション (Windows Vista® & Windows® 7)

Windows® Vista と Windows® 7には、サウンド・コントロール・パネルボタンが見えるはずです。これをクリックするとWindows®サウンド・パネルが起動します。全てのWindows®マルチメディア・プログラムで、POD HD500Xをそのサウンド・カード・デバイスとして利用したい場合は、サウンド・パネルの再生と録音タブ内で、「デフォルト」オーディオ・デバイスとして指定することができます。



デフォルト・ playback・デバイスとして選択した POD HD500X

Soundダイアログの中のプロパティボタンをクリックして、Windows®マルチメディア・アプリケーションと共に使用したPOD HD500Xサンプル・レートとビット深度のデフォルト・フォーマット設定にアクセスすることもできます。(Line 6デバイス用にASIO®ドライバーを使用するように設定したオーディオ・アプリケーションを使用すると、ASIO®は直接そのデバイスと通信を行うようになり、これらの「デフォルト・フォーマット」の設定が適用されないことに注意してください。)



Window Vista/7コントロール・パネル&gt;サウンド&gt;プロパティ&gt;アドバンス・タブ

## 6 ASIO® ドライバー・セッティング

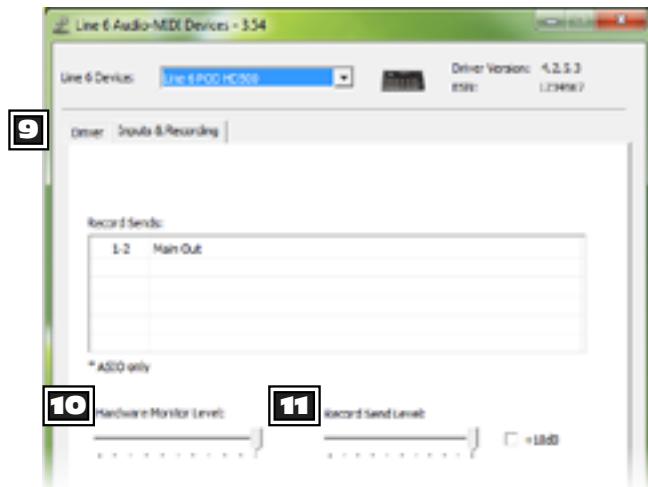
- **ASIO® Client:** POD HD500XをASIO®オーディオ・デバイスとして使用しているオーディオ・ソフトウェアを実行している場合、そのソフトウェアの名称がここに表示されます。
- **Buffer Size:** 使用中のASIO®バッファ・サイズがDAWソフトウェアの「応答性」と「レイテンシ」に影響を及ぼします。設定が低ければ低いほど応答速度はより速くなります。しかしそのプロセッサーの高い使用量と引き換えにオーディオ・ドロップアウトの危険性が増します。オーディオ・ソフトウェアの再生や録音にばらつきがある場合は、値を上げてください。一般的に最初は、256に設定するのが良いでしょう。
- **Bit Depth:** 使用中のASIO®ビット深度 ここでは24ビットで使用することをお勧めします。

9・13

**7 Sample Rate Converter**—デバイスが本来の48kHz以外のサンプル・レートで操作されると、このインジケーターが点灯します。POD HD500Xは内蔵サンプル・レート・コンバーターの利用により、48kHzに加え、44.1kHz、88.2kHz、96kHzのレートもサポートしています。

**8 USB Buffer Size**—このスライダーを使用して、入力モニター信号のオーディオ反応に合わせてバッファサイズを調節します。基本的に、デフォルト・セッティングはほとんどのシステムに対して問題がありません。しかしオーディオがドロップアウトしたり、システム上で大量のCPUデマンドを課している場合は、スライダーの目盛りを1つか2つ右へ上げて負担を軽減させてください

## Inputs & Recording ページ



Line 6 Audio MIDI Devices—Inputs &amp; Recording タブ

**9 Record Sendsリスト:**ここに表示されているのが、オーディオ・ソフトウェアに使用可能な、現在接続されているLine 6デバイスのRecord Sendsです。POD HD500Xには、ステレオ「1-2 Main Out」のRecord Sendが1種類表示されます。

**10 Hardware Monitor Level:**処理されたソース・インプット・トーンの出力ボリュームをこのスライダーでコントロールし、モニター専用に調節します（信号はデバイスのメイン・アウトプットへ送られます）。Record Sendを経由してコンピュータに送られた信号レベルへの影響はありません。これにより、DAWソフトウェアで録音を行う場合などといった、コンピュータからの再生オーディオに対するギターのモニター・レベルのバランスをとることができます。

お使いのDAWに独自の「ソフトウェア・モニタリング」機能がある場合もあります。DAWのプラグインを通したギターのシグナルを聞きたいなど、DAWのソフトウェア・モニタリングを使用したい場合もあると思います。DAWソフトウェア・モニタリングを使用する場合は、このハードウェア・モニターのスライダーを最小に設定し、DAWソフトウェア・モニタリングの信号だけが聞こえるように設定してください。

**11 Record Send Level:**このスライダーは、PODのRecord Sendからコンピューターに送られる信号を独自にコントロールします。これはDAWに録音される信号のレベルに直接影響します。DAWに送る信号をブーストしたい場合は+18dBにチェックを入れることができます。

# 付録A:Line 6 Monkey™

A•I



Line 6 Monkey™は無償で提供されるインテリジェントなアップデーター・ソフトウェアです。POD® HD500Xやその他の関連するLine 6製品も同様に、常に最新のバージョンに更新することができます。Line 6 Monkeyは、POD HD500X USBデバイス・ドライバーと共にMac®やWindows®コンピュータに自動的にインストールされます。まだUSBデバイス・ドライバーをインストールされていないのでしたら、POD HD500Xをコンピュータと共に活用するためには、すぐにでも入手する必要があります。[9•1ページの「9-USBオーディオ」](#)を参照してください。Line 6 Monkeyを定期的に起動させて最新のアップデートを確認し、インストールすることをお勧めします。

Line 6 Variax®ユーザーの方へ：使用されているVariax向けの最新アップデート入手するため、Line 6 Monkeyを使用することを強く推奨します。詳細は[ページA•3ページの「Line 6 Variax アップデート」](#)をご覧ください。

## Line 6 Monkeyを起動する

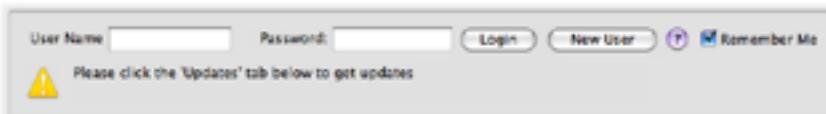
POD HD500XをコンピュータのUSB 2.0ポートへ接続してからデバイスの電源を入れてLine 6 Monkeyを起動します：

- Mac®の場合、アプリケーション/Line 6/Line 6 Monkeyへと進みます。
- Windows®の場合、Startメニュー¥プログラム\Line 6\Tools\Line 6 Monkeyへと進みます。

特に明記しない限り、以下の手順はMac®やWindows®上で同じです。

## ログイン・アカウント

Line 6 MonkeyがLine 6とコミュニケーションをとり、必要なものを提供できるように、まずはログインを行います。何回かクリックするだけ、それに無料です！まだアカウントを作成していない場合は、New Userボタンをクリックして、アカウント作成手順に進みます。



## 付録A:Line 6 Monkey™

A•2

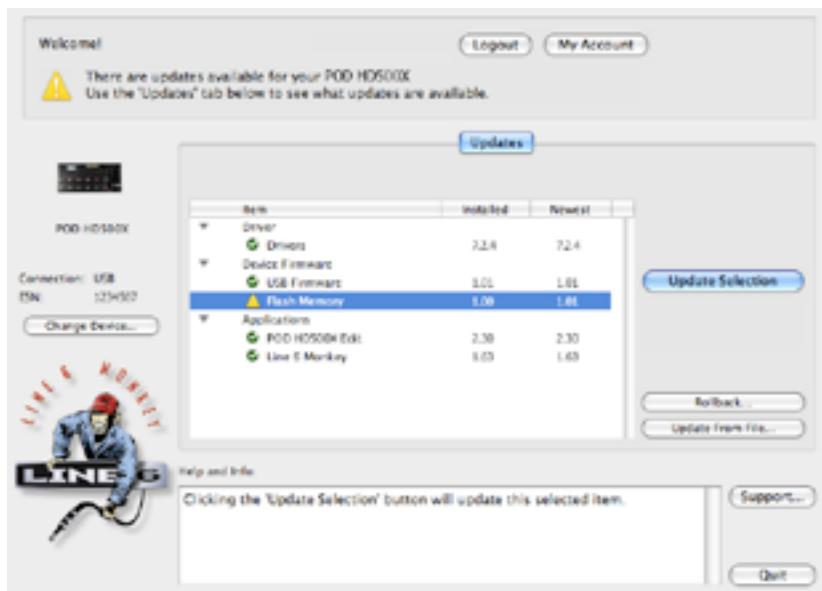
### ハードウェアを登録する

まだ登録がお済みでない場合は、接続したLine 6ハードウェアの登録を促すダイアログがここで表示されます。本当に簡単な手順です。Registerボタンをここでクリックしてください。



### アップデート入手する

入手可能な新しいアイテムとして、より新しいバージョンがある場合は、そのアイテムをクリックして、あなたのMonkeyにインストールの手順を案内させてください。



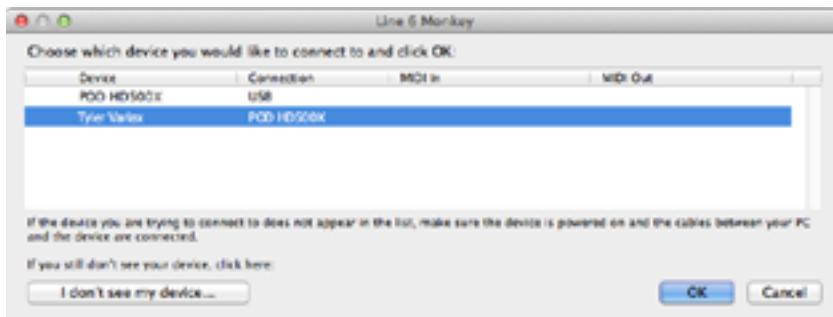
Line 6 Monkey – POD HD500X用のUpdates画面

例として、上記のスクリーン・ショットはMonkeyがより新しいファームウェアを発見したことを示しています。フラッシュ・メモリー・バージョンが入手可能であり、それは現在のデバイスにインストールされています。このシナリオでは、Flash Memoryアイテムを選び、次に Update Selection をクリックします。画面に表示されるメッセージを注意して読んでください。あとしばらくで、Monkeyがアップデートの操作をお手伝いします。アップデートが全て完了するまでは、デバイスのコントロールと接続ケーブルには、触れないようにすることが特に重要です！

## Line 6 Variax アップデート

Line 6 Variaxをご使用の場合、最新のファームウェア・アップデートの確認とインストールを行うことを強く推奨します。最新の POD HD500X ファームウェア、POD® HD500X Edit および Variax® Workbench™ ソフトウェアと互換性を保つためにファームウェア・アップデートが必要な場合があります。

手順は、Variax を POD HD500X 背面の **VARIAX** インプットに接続し、Line 6 Monkey を起動するだけです。接続されているデバイスから選択するように指示されます。



使用されている Variax を選択し、OK をクリックしてください。Line 6 Monkey アップデート・ウィンドウが開き、お使いの Variax で使用可能なアップデートが表示されます。Flash アップデートが使用できる場合は、それを選択して Update Selected をクリックし、最新バージョンをインストールしてください。

最新の Variax Workbench ソフトウェアのダウンロードおよびインストールがされていない場合は、それも実行してください。こちらも Line 6 Monkey アップデート・ウィンドウ内に表示されます。



# 付録 B : MIDI

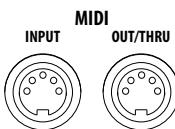
B•I

この付録には POD® HD500X で利用可能な MIDI 機能の説明が記載されています。POD HD500X は、割り当て可能なフットスイッチ&ペダル・コントローラーの離れた場所からのアクセス、そしてバンク & プリセットを読み込むために送信される MIDI メッセージに応答します。POD HD500X はまた、セトリリストとプリセット内を移動する際に、バンク & プログラム・チェンジ・メッセージを送ります。POD HD500X は、MIDI コントローラー・デバイスとしての機能も備えているため、カスタマイズした MIDI コマンドをフットスイッチやエクスプレッション・ペダルを使用して送信することができます。

POD HD は Line 6 DT シリーズのアンプに MIDI CC を送信することができるため、多数の「隠れ」パラメーターにアクセスして、さらに多くのカスタム・トーンを作り出すことができます。<http://line6.jp/support/manuals/> にある DT シリーズの MIDI インプリメンテーション・ガイドや、他の Line 6 MIDI 関連説明書をご覧ください。

## MIDI Input & Out/Thru

全ての MIDI コミュニケーションに使用する接続は、**MIDI INPUT** と **MIDI OUT/THRU** ポートで行います。（POD HD500X に、USB-MIDI 機能は含まれていません。）MIDI 信号を他のデバイスへ送る場合は、一般的な 5 ピンの MIDI ケーブルを **MIDI OUT/THRU** から外部デバイスの MIDI Input へ接続します。MIDI 信号を受け取る場合は、POD HD500X の **MIDI IN** と本機の MIDI OUT を MIDI ケーブルで接続します。



POD HD500X の **MIDI INPUT, OUT/THRU** コネクター

## POD HD500X の MIDI Setup オプション

MIDI チャンネルを設定して MIDI メッセージの送信 & 受信を行うときは、POD HD500X SETUP : MIDI/Tempo - MIDI Channel オプションを使用します。この MIDI チャンネルで MIDI データを受け取り、POD HD500X の **MIDI OUT/THRU** を「通過」させて他の MIDI デバイスへ送ることもできます。その場合は、この同じ Setup ページの **MIDI Out/Thru** オプションを、「Thru」に設定しておいてください。[2•10 ページの「ページ 6、MIDI/Tempo」](#) をご覧ください。

## MIDIを利用したPOD HD500Xの機能の操作

POD HD500X フットスイッチ&ペダルの割り当て、Looper機能等は、POD HD500Xの**MIDI IN**ポートに接続したMIDIコントローラー・デバイスを経由させて、離れた場所から操作することができます。これらのPOD機能にアクセスするためには、以下の表に記載されているMIDI CC設定を使用して、MIDIコントローラー・デバイスを設定する必要があります。

POD HD500X-MIDIコントロール・リファレンス		
MIDI CC#	値	機能
<b>ペダル &amp; フットスイッチ・アサイン</b>		
001	0 - 127	EXP-1 ペダル・アサイン
002	0 - 127	EXP-2 ペダル・アサイン
051	0 - 127	FS1 アサイン On/Off を切り替える
052	0 - 127	FS2 アサイン On/Off を切り替える
053	0 - 127	FS3 アサイン On/Off を切り替える
054	0 - 127	FS4 アサイン On/Off を切り替える
055	0 - 127	FS5 アサイン On/Off を切り替える
056	0 - 127	FS6 アサイン On/Off を切り替える
057	0 - 127	FS7 アサイン On/Off を切り替える
058	0 - 127	FS8 アサイン On/Off を切り替える
059	0 - 127	EXPトウ・スイッチ・アサイン On/Off を切り替える
<b>ルーパー・コントロール</b>		
060	0-63 = Overdub, 64-127 = Record	ルーパー Record/Overdub スイッチ
061	0-63 = Stop, 64-127 = Play	ルーパー Play/Stop スイッチ
062	64-127 = Play Once	ルーパー Play Once スイッチ
063	64-127 = Undo	ルーパー Undo スイッチ
065	0-63 = Forward 64-127 = Reverse	ルーパー Forward/Reverse スイッチ
067	0-63 = Pre 64-127 = Post	ルーパー Pre/Post ポジション・スイッチ
068	0-63 = Full 64-127 = Half	ルーパー Full/Half Speed スイッチ
099	0-63 = Off 64-127 = On	Looper モード On/Off

POD HD500X—MIDI コントロール・リファレンス		
MIDI CC#	値	機能
<b>追加コントロール</b>		
064	64-127 = Tap	タップ・テンポ・タップ・テンポに入る
069	0-63 = Off 64-127 = On	TunerモードOn/Off

## バンク & プログラム・チェンジ・メッセージ

POD HD500Xは入力されたMIDIバンク & プログラム・チェンジ・メッセージに対し、以下のように反応します。

- セットリストを読み込む：MIDIコントローラー・デバイスから、セットリスト内で選択したプリセット用のプログラム・チェンジ・メッセージ（プリセット01A～16D用の値0～63）に続いて、バンク・チェンジCC00（バンクMSB）、CC32（LSB）メッセージを、値0（セットリスト1）、1（セットリスト2）等と共に送信します。セットリストとプリセットがPOD HD500Xへ読み込まれます。
- 現在選択されているセットリスト内のプリセットを読み込む：セットリスト内のプリセット用にプログラム・チェンジ・メッセージ（プリセット01A～16Dの値0～63）を送ります。

プリセットを操作するためにPOD HD500Xハードウェア（**PRESETS**ノブ、**4方向ナビ・ディスク**、フットスイッチ**A**、**B**、**C**、**D**\*）を使用する場合、選択されているプリセットに適合するMIDIプログラム・チェンジ・メッセージが自動的に送信されます。このメッセージは**MIDI OUT/THRU**から送信されます。また、フットスイッチでバンクおよびプログラム・チェンジ・メッセージを送信するように設定することも可能です。次のセクションをご覧ください。

\*FS5からFS8のフットスイッチを押してPOD HD500Xのプリセットを切り替える際にこのプリセット・データを送信するには、Setupの「フットスイッチ・モード」を「ABCD」にする必要があります。（[2•2ページの「ページ 1、Setup : Utilities」参照](#)）

この機能では、以下のMIDIバンクおよびプログラム・チェンジ情報を送信することで、POD HD500Xから外部デバイスをコントロールすることが可能になります。また、Line 6 POD HD500XまたはPOD HD Proをもう1台接続した場合、そのデバイスのセットリストおよびプリセットは1台目のPOD HD500Xと同じように動作します。

## 付録 B:MIDI

B•4

特定の操作でこれらのPOD HD500Xコントロールがアクセスされたときに、自動的に送られるMIDIメッセージを以下に説明します。



バンク&プログラム・チェンジを送信するPOD HD500Xコントロール

- PRESETSノブを回す: 時計回りや反時計回りに回すと、POD HD500X内部では現在のセッリスト内のプリセットを通じて設定値が増減します。これらの動作もまた以下のMIDIメッセージを送ります：
  - 時計回りに回す: 値を増やすプログラム・チェンジ・メッセージを送信します。
  - 反時計回りに回す: 値を減らすプログラム・チェンジ・メッセージを送信します。
- フットスイッチA、B、C、Dを押す: 内部的に、現在のバンク内のそれぞれのプリセットを選択します。これらのスイッチも同様に、0から64までの値の付いた、固定メッセージとしてのMIDIプログラム・チェンジを送信します。現在選択されているバンクによって、特定の値が決められています（例えば、バンク1に対しては、4つのフットスイッチが0～3の値を送り、バンク2に対しては、4～7の値を送る等）。
- PRESETSノブ→ナビ・ディスクの矢印ボタン→ENTERボタンを押す: この一連の操作により、内部的にセットリスト画面を呼び出し、セットリスト（1～8）を選択し、そのセットリストを読み込みます。この操作もまたMIDIバンク・チェンジのメッセージを送信します。セットリスト1～8を選択すると、それぞれ0～7の値でメッセージが送られます。

## POD HD500XをMIDIコントローラー・デバイスとして使用する

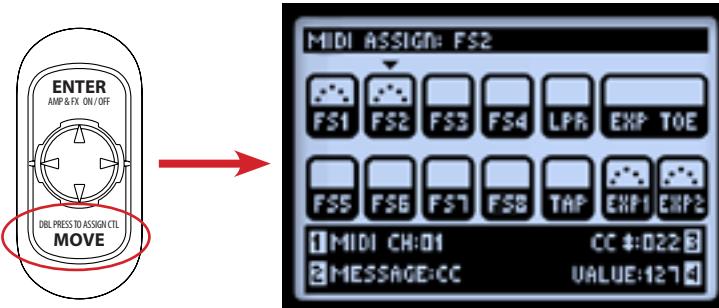
POD HD500Xのプリセットは、大部分のフットスイッチとペダル・コントロールのためにカスタマイズしたMIDIコントロールの割り当てを含めるように、いくつでも構成することができます。これにより、POD HD500Xを使用して、離れた場所からLine 6 M13、M9、POD® Farm 2 プラグ・イン、もう1台のPOD HD500XやHD Proデバイス、外部MIDIコントロールに対応するその他のLine 6製品、あるいは他社製品等のハードウェアやソフトウェアをコントロールすることができます！

B•5

フットスイッチFS5～FS8は、それらのSetupオプションがFS5～FS8「Pedalboard Mode」に設定されている場合は、設定したMIDIアサインだけを送信することに注意してください。—[2•2ページの「ページ1、Setup: Utilities」](#)を参照してください。また、POD HD ProをLooperモードで使用中の場合、いくつかのフットスイッチから固定されたMIDI CCが送信されます。[B•8ページの「Looperモードのフットスイッチ動作」](#)参照

## MIDI ASSIGN画面

MIDI ASSIGN画面は、MIDIコマンドを自在に構成する場所です。MIDI ASSIGN画面にアクセスするときは、ホーム・ビュー・ページから**MOVE**ボタンを長押しします。この画面で行った設定は全てプリセット毎に保存されます。



MOVEボタンを長押ししてMIDI ASSIGN画面を表示させます。

◀▶と▲▼ナビ・ディスク・ボタンを使用して、フットスイッチかEXPペダルを選びます。選択したコントロールが下向きの矢印で示されます（上の画面ではFS2）。選択が終われば、マルチファンクション・ノブ1～4でコントロールのMIDIオプションをエディットすることができます。実行するMIDIの割り当てがあれば、画面の中のそれぞれのコントロールに表示されます：



MIDI割り当てのあるFS1



MIDI割り当てのない FS1

B•6

- **MIDI CH(ノブ 1)**: 選択したコントロールがMIDI コマンドを送信する MIDI チャンネル選びます。
  - **None**: MIDIデータを送信しません。(ノブ2~4のオプションは、「None」以外のオプションを選ばない限り表示されません。)
  - **0~16**: 選択したコントロールのメッセージを送信する MIDI チャンネルを選びます。
  - **Base**: デバイス・セットアップの中で設定したように、現在の「システム」MIDI チャンネルに従うようにコントロールを設定します ([2•10ページの「ページ 6, MIDI/Tempo](#) 参照)。共通の Setup – MIDI Channel 値にダイナミックに従わせるために、どんなプリセットの MIDI コントロールでも「Base」に設定しておくのは便利な方法です。
- **MESSAGE (ノブ 2)**: 選択したコントロールによって送られる MIDI メッセージのタイプを選びます。
  - **FS1 ~ FS8、ルーパー、タップおよびエクスプレッション・トゥ・スイッチ**はそれぞれに、MIDI CC、CC トグル、プログラム・チェンジ（固定）、バンクチェンジ（固定）、またはノート・オン・メッセージを送るように割り当てることができます。
  - **EXP1 と EXP2**ペダル・コントロールは、それぞれが 1 つの MIDI CC を定義可能な値域と共に送るように割り当てるため、ターゲットとなるデバイス上の可変的なパラメーターをカバーすることができます。
- **CC/Program/Bank 番号 (ノブ 3)**: 選択したメッセージ・タイプによっては、さらにオプションを選ぶことができます（ノブ 2）。
  - **MIDI CC 番号**: どれでも選ぶことができます。EXP1 や EXP2 コントロールをエディットする場合、このノブでペダルの最小CC 値を設定することができます。（ノブ 4、VALUE の説明も参照してください。）
  - **Program 番号**: メッセージ・タイプが「プログラム・チェンジ」の場合、固定プログラム 値を 000 から 127 の中から選ぶことができます。

- **Bank 番号**: メッセージ・タイプが「バンク・チェンジ」の場合、固定プログラム値を000から127の中から選ぶことができます。追加のプログラム・チェンジ#001が自動的に送信され、通常は受信デバイスのバンクの最初のパッチが選択されます。
- 注意: メッセージ・タイプが「Note」の場合、特定の音符値を選ぶことができます (C0からG9)。
- **Value/Velocity (ノブ 4)**: ノブ2とノブ3の設定によっては、さらにオプションを選ぶことができます。  
  - **VALUE (CC用)**: メッセージ・タイプが「CC」の場合、スイッチ・コントロール (000 ~ 127) を毎回押すたびに送られるCC用の値を、これで設定することができます。EXP1やEXP2コントロールをエディットする場合、このノブでペダルの最大値を設定することができます。
  - **VALUE (CC Toggle用)**: メッセージ・タイプが「CC Toggle」の場合、「On」か「Off」を選ぶために000か、127を選ぶことができます。コントロールは、クリックするたびに代わりのメッセージを送ります。これでもう、MIDIメッセージを「ミュート」できます!
  - メッセージ・タイプが「Program Change」や「Bank Change」の場合、ノブ4のオプションは表示されないことに注意してください。
- **Velocity**: Noteメッセージ用のベロシティ値を設定します (000 ~ 127)。

## Looper モードのフットスイッチ動作

POD HD500XをLooperモードで使用中の場合、Looper機能フットスイッチは、自動的に以下のMIDI CCメッセージを送信します。これらはグローバルMIDI CCアサインであるため、エディットすることはできません。

**注意:**これらのアサインは、これらのLooperモード機能のためにPOD HD500XとPOD HD Proデバイスが応答する特定のMIDI CCメッセージです。従って、POD HD500XからMIDI Outを、もう1台のPOD HD500XやPOD HD ProデバイスのMIDI Inへ送ると、そのLooper機能も同時に切り替わります！

**Looper モード・フットスイッチャー MIDI CC 送信リファレンス**

フットスイッチ	MIDI CC #	値
<b>FS1</b> (Undo)	063	127
<b>FS2</b> (Play Once)	062	127
<b>FS3</b> (Pre/Post)	067	切り替え: Pre= 0~63, Post= 64~127
<b>FS5</b> (Rec/Overdub)	060	切り替え: Overdub= 0~63, Record= 64~127
<b>FS6</b> (Play/Stop)	061	切り替え: Stop= 0~63, Play= 64~127
<b>FS7</b> (1/2 Speed)	068	切り替え: Full= 0~63, Half= 64~127
<b>FS8</b> (Reverse)	065	切り替え: Forward= 0~63, Reverse= 64~127

